

**baby lock**  
mate

*Bm1000DX*

# 使用の手びき

このミシンを安全にお使いいただくため、この「使用の手びき」をご使用の前に必ずお読みください。  
「使用の手びき」は手元に保管し、末長くご活用ください。

## はじめに


このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。

このミシンは、直線縫いやジグザグ縫いはもちろん、ホームソーイングに必要な縫いが簡単にできるコンピュータミシンです。このミシンの特長をご理解いただき、正しくお使いいただくために、まずこの「使用の手びき」をよくお読みください。「使用の手びき」は、保証書と共に大切に保管してください。

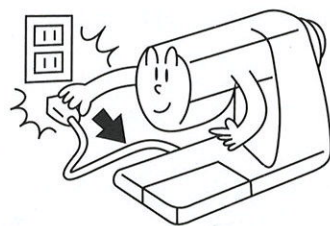
## 安全にご使用いただくために


このミシンを安全にご使用いただくために、以下のことがらを必ず守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。FOR USE IN JAPAN ONLY。

 **警告** このマークの表示は感電、火災の恐れがありますから、特にご注意ください。

1. 一般家庭用交流電流 100V でご使用ください。
2. 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
  - ・ ミシンのそばを離れるとき。
  - ・ ミシンを使用したあと。
  - ・ ミシン使用中に停電したとき。
  - ・ 接触不良、断線などで正常に作動しないとき。
  - ・ 雷が鳴りはじめたとき。



 **注意** このマークの表示は感電、火災、けがなどの原因となりますから、特にご注意ください。

1. お客さま自身での分解、改造はしないでください。
2. ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
3. ミシンの操作中はカマカバーなどのカバー類は必ず閉めてください。
4. 曲った針、先のいたんだ針はご使用にならないでください。



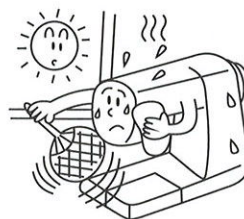
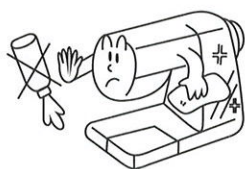
5. 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。
6. お子さまがご使用になるときや、お子さまの近くで使用される時は、特に安全に注意してください。
7. 以下のことをするとき、電源スイッチを切ってください。



- ・ 針、針板、押え、アタッチメントを交換するとき。
  - ・ ランプを交換するとき。(ランプが冷えてから行ってください。)
  - ・ 「使用の手びき」に記載のあるミシンの手入れをするとき。
  - ・ 原則として上糸、下糸をセットするとき。
8. ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、ご購入店にて点検、修理、調整をお受けください。
    - ・ 正常に動作しないとき。
    - ・ 落下などにより破損したとき。
    - ・ 水に濡れたとき。
    - ・ 電源コード、プラグ類が破損、劣化したとき。
    - ・ 異常な臭い、音がするとき。
  9. ミシンを正しく使用するために、安定したテーブルや机において使用ください。

## ミシンの取り扱い

- シンナーやベンジンなどでふかないでください。
- 低温の場所から出したときは、普通の温度になじむまで、しばらく置いてください。時間がたてば正常に作動するようになります。保管は、なるべく寒いところをさけてください。
- 直射日光にあてたり、高温多湿のところには置かないでください。



## 仕様

形 式	Bm1000DX
定格電圧	100V
消費電力	70W
周波数	50Hz/60Hz
ランプ定格	5W 12V
寸 法	幅:370 mm×奥行:174 mm×高さ:268 mm
重 量	約 6.8 kg (本体のみ)

## もくじ

はじめに.....	2
安全にご使用いただくために.....	2-3
ミシンの取り扱い.....	4
仕様.....	4

### ご使用になる前に

補助テーブル・付属品.....	7
各部の名称とはたらき.....	8
左側面・前面/右側面・背面.....	8
針・押え部/操作部.....	9
表示パネル.....	10
電源のつなぎ方.....	11
電源を入れます/電源を切ります.....	11

### 縫う準備をしましょう

下糸をセットしましょう.....	12
糸こまをセットします.....	12
ボビンを取り出します.....	12-13
下糸を巻きます.....	13-14
ボビンをかまにセットします.....	15
上糸を通しましょう.....	16
上糸を掛けます.....	16-17
針に糸を通します.....	18
下糸を引きあげます.....	19
針を取りかえるには.....	20
良い針の調べ方.....	20
布地に適した針と糸の選び方.....	21
押えを取りかえるには.....	22
取り外します/取り付けます/シームガイドのつけ方.....	22

### 縫ってみましょう

模様を選び方.....	23
縫い模様一覧.....	24
糸調子のとり方.....	25
基本縫い（直線縫い及びジグザグ縫い）.....	26
縫い目の長さを変えるとき/ふり幅を変えるとき.....	26-27
縫い方向をかえるには/返し縫い/止め縫い.....	28
厚地の縫い方/段縫い/薄地の縫い方.....	29

## いろいろな縫い方

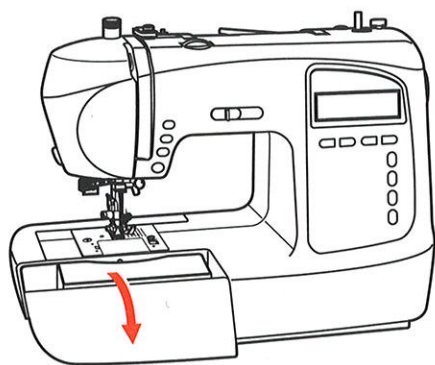
裁ち目がかり.....	30
ジグザグ押えを使用するとき/縁かがり押えを使用するとき.....	30
ボタンホール.....	31-34
芯入りボタンホール.....	34
まつり縫い.....	35
ファスナー付け.....	36
つきあわせ.....	36
脇あき/スライダーをよけて縫うには.....	37
つくろい縫い.....	38-39
伸縮縫い.....	40
飾り縫い.....	40
その他の応用縫い.....	41
スカラップ/シェルタック/ファゴティング/パッチワーク.....	41

## いつまでもお使いいただくために

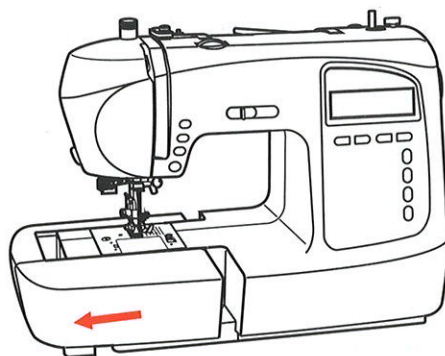
ミシンの手入れ.....	42
かまの掃除/かまの分解/内がまと送り歯の掃除/かまの組み立て.....	42
液晶表示窓の清掃/本体表面の掃除.....	43
ランプの交換.....	43
困ったときには.....	44-45
修理サービス要領.....	46
フットコントローラー.....	47

## 補助テーブル・付属品

ご使用になる前に



- 付属品箱は、手前方向に開けてください。



- 補助テーブルは左方向へ引くとはずれます。

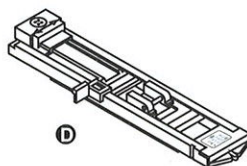
### ● 付属品



ジグザグ押え  
(ミシン本体についています)



ファスナー押え



ボタンホール押え



縁かがり押え



ブラインド  
ステッチ押え



サテン押え



ドライバー



ドライバー (小)



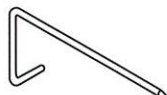
針パック



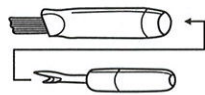
ボビン



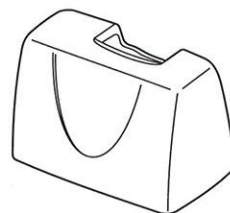
糸コマ押え



シームガイド



リッパー/ブラシ



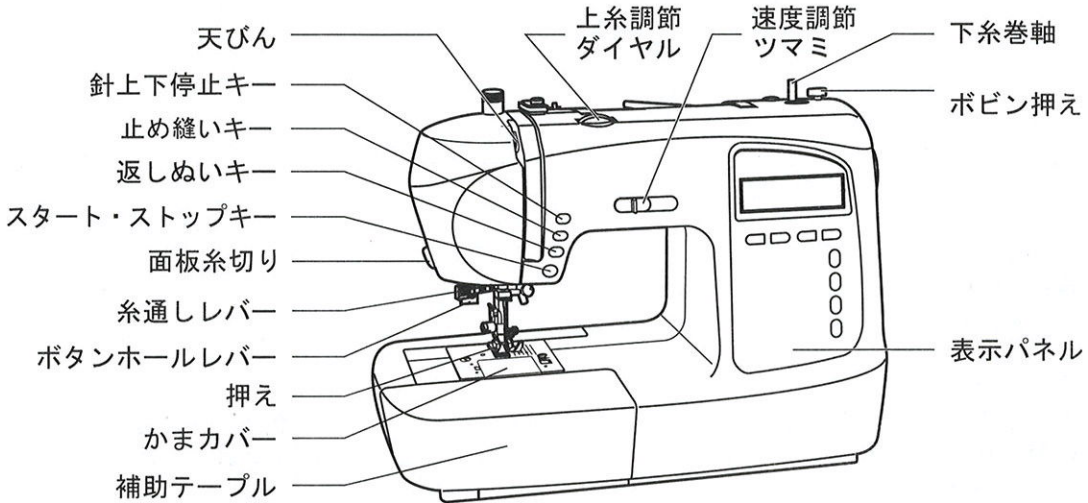
ハードケース

## 各部の名称とはたらき

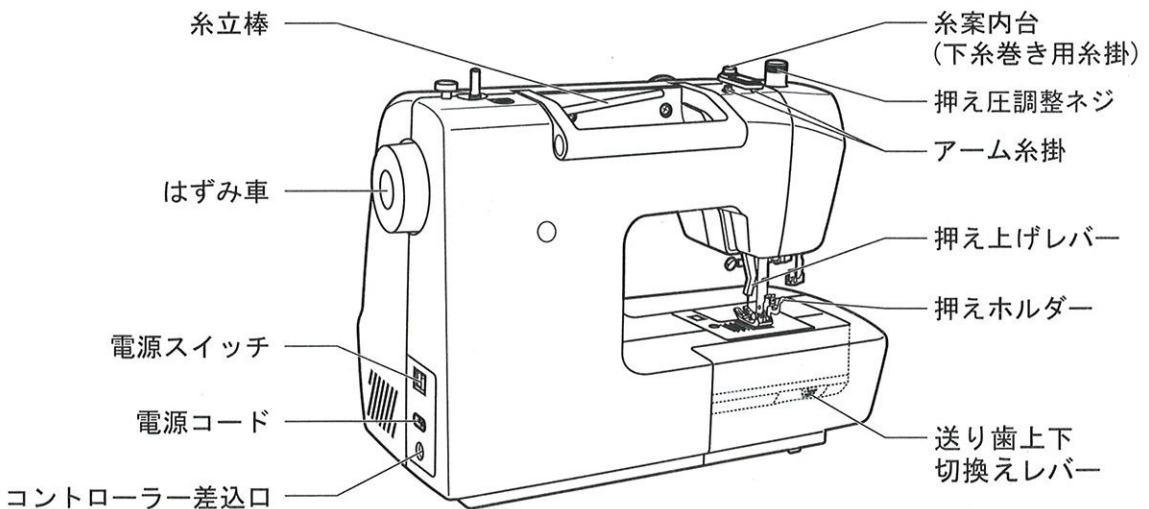
ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをご使用になる前に、よく読んで各部の名称を覚えておきましょう。

ご使用になる前に

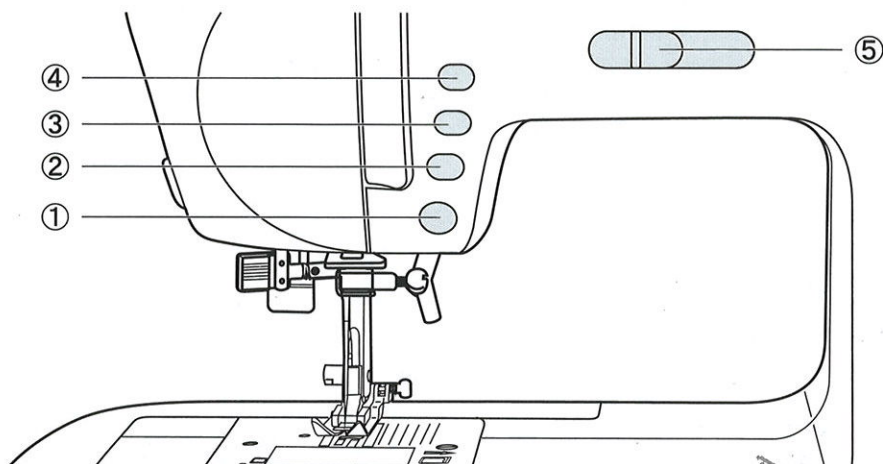
### ● 左側面・前面



### ● 右側面・背面







## ● 操作部

ミシンを動かす基本的な操作が手もとでできます。

### ① スタート・ストップキー

ミシンをスタートまたは停止します。キーを押すとゆっくり動き出し速度設定つまみでセットした速さで動きはじめます。停止すると、針は上がった状態で止まります。

\* 糸巻き軸が右に寄っているときは糸巻軸だけ動きます。

### ② 返し縫いキー

返し縫い又は止め縫いをします。キーを押している間、模様 01, 02 直線の場合は、縫った方向の逆に縫い、キーから手をはなすと止まります。模様 03~17 のときには、止め縫いをします。模様 17~20 のときにはキーを押しても機能しません。

### ③ 止め縫いキー

模様を選択した後、このキーを押すと止め縫いをすることができます。

模様 01, 02, 03, 04, 11, 12 のとき、キーを押すと3針止め縫いをして自動的に止まります。

その他の模様縫いのとき、キーを押すと、模様の完了するところで止め縫いをして自動的に止まります。

### ④ 針上下停止キー

キーを押すたびに針の位置を上又は下に切り替えます。続けて押すと、1 針縫いになります。

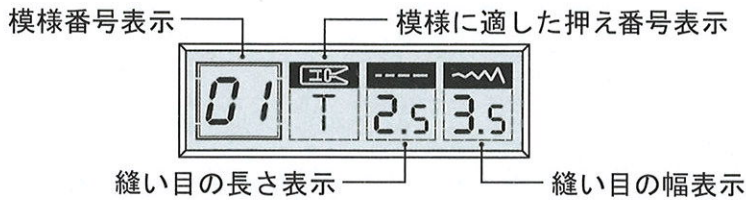
### ⑤ 速度設定つまみ

ミシンの縫う速度を設定します。お好みの速度にセットしてください。

左側に寄せると遅くなり、右側に寄せると速くなります。

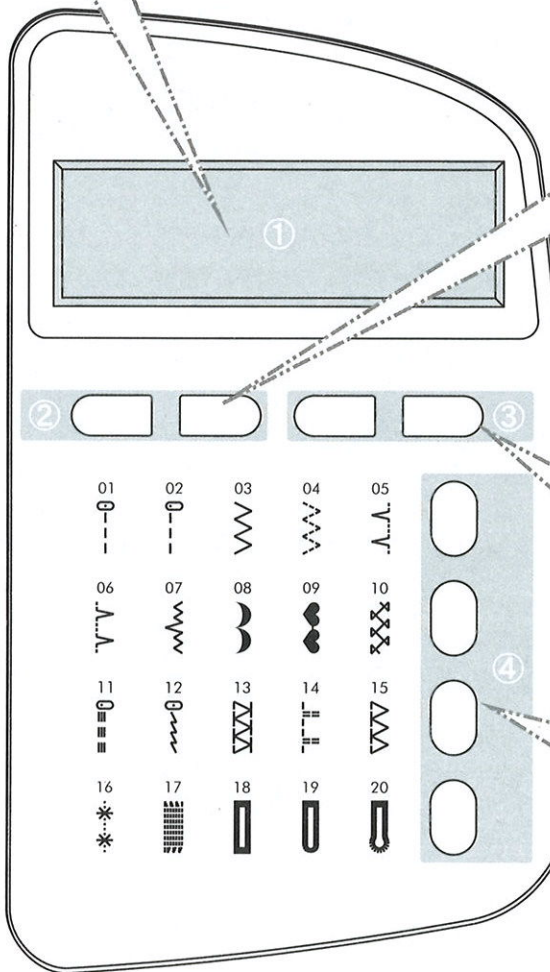
●表示パネル

表示パネルには、縫い模様を選択するキーが付いています。



①液晶表示窓

電源を入れると、自動的に直線(中基線)が選ばれ、この液晶表示窓に表示されます。模様選択キーを押して模様を選択すると、その模様に適した標準の縫い目の長さと幅が表示されます。



②縫い目の長さキー

縫い目の長さを変えるときに「+」キー又は「-」キーを押します。液晶表示窓にはその縫い目の長さが表示されます。

③縫い目の幅キー

ふり幅を変えるときに「+」キー又は「-」キーを押します。液晶表示窓にはそのふり幅が表示されます。

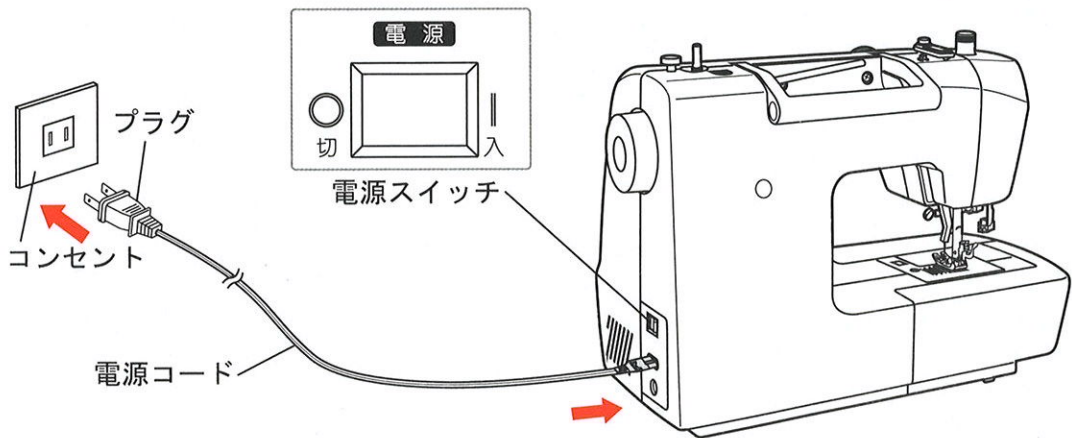
④模様選択キー

キーの左側に示された模様を選択し、1回押す毎に、右側に移動し、続けて押すと一番左側の模様に戻り繰り返し選択できます。詳細は「模様の選び方」(P. 23)で説明します。

## 電源のつなぎかた

**⚠ 警告：感電、火災を防ぐために**  
電源は必ずプラグを持って抜き差ししてください。

**⚠ 注意：ケガ防止のために**  
○ 使用中に糸がからんだり、ミシンが止まった場合には電源スイッチを「切」にしてください。  
○ ミシンを使用しないとき、ミシンから離れるときは、電源コードを外してください。



### ● 電源を入れます

- ・電源プラグを家庭用電源コンセント (AC100V) に差し込みます。
- ・電源スイッチを「入」にします。  
電源が入り、ランプが点灯し、液晶表示窓に模様 01 直線が表示されます。

### ● 電源を切ります

- ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。
- ・ミシンが止まっていることを確認します。
  - ・電源スイッチを「切」にします。電源が切れ、ランプが消えます。
  - ・電源プラグを持ってコンセントから抜きます。

## 下糸をセットしましょう

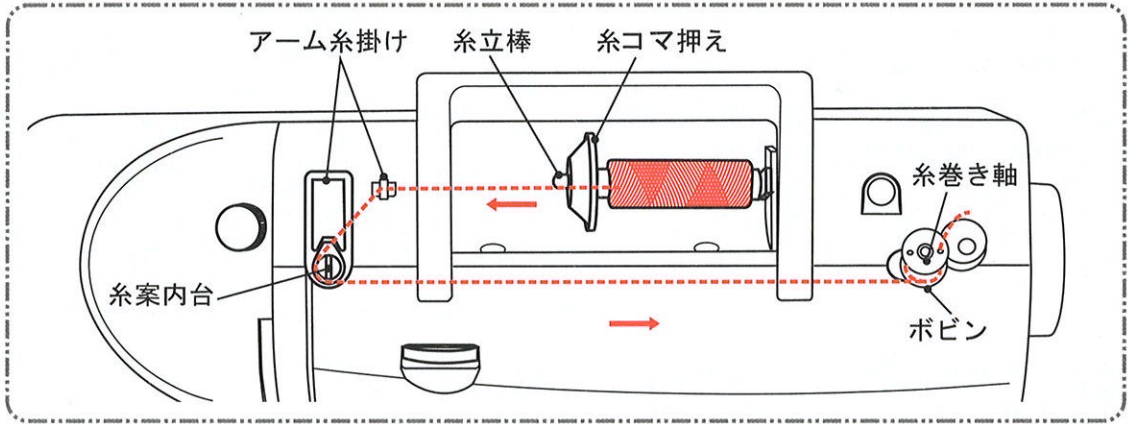
下糸用の糸をボビンに巻いてから、ミシンにセットします。



注意：ケガ防止のために

○糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。

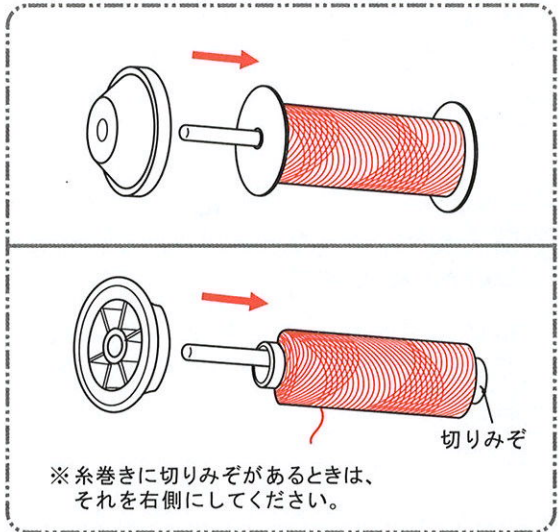
○ボビンをとりだすときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。



### ●糸コマをセットします

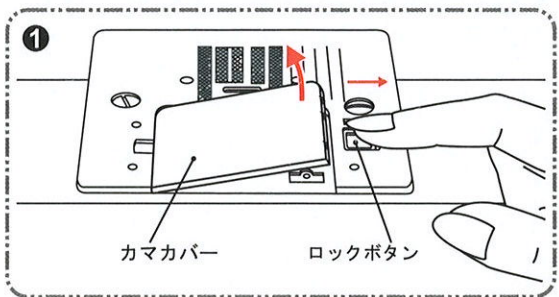
糸立棒を軽くおこし、下側から手前に糸が出る向きにして下糸用の糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。

●チーズ巻きの糸を使用するときは、糸コマ押えを右図下のように取り付け、糸コマから少し離してセットします。



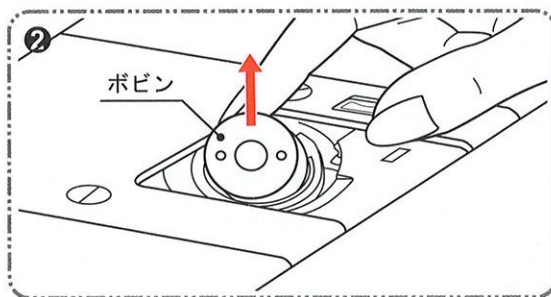
### ●ボビンを取り出します

①かまカバーの右側にあるロックボタンを右に動かします。



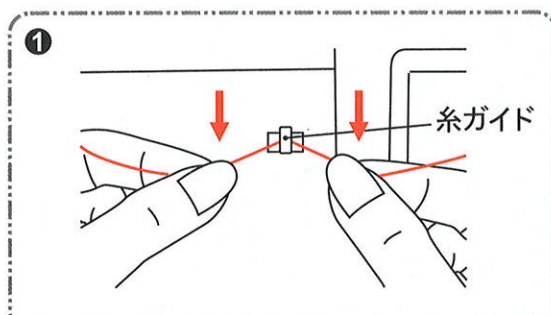
縫う準備をしましょう

- ② かまカバーを外し、ボビンをとりだします。

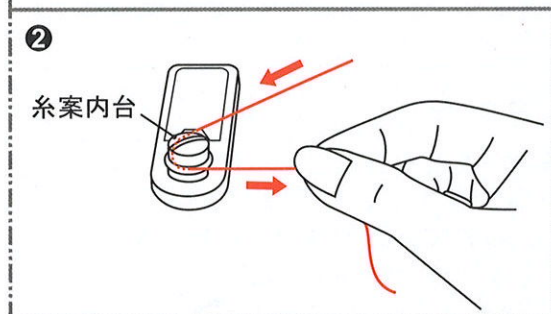


● 下糸を巻きます

- ① 糸こまから糸を引き出し、アーム糸掛けの後ろから手前に糸をかけます。

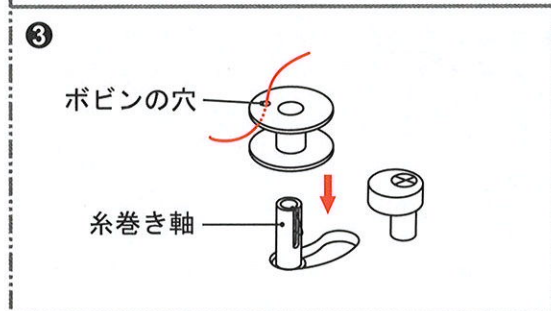


- ② かけた糸端を更に引いて糸案内台の糸ガイドから糸を通し、皿の間に左回りに糸をかけて糸を交差させます。

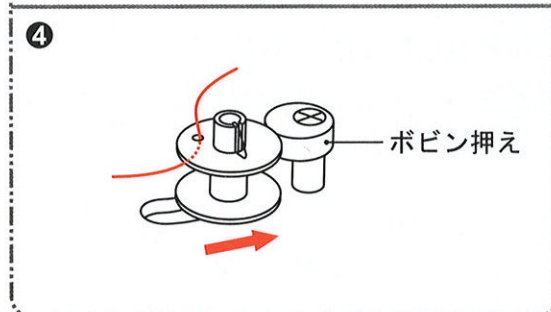


- ③ 糸案内台にかけた糸を引き出し、ボビンの穴に通します。

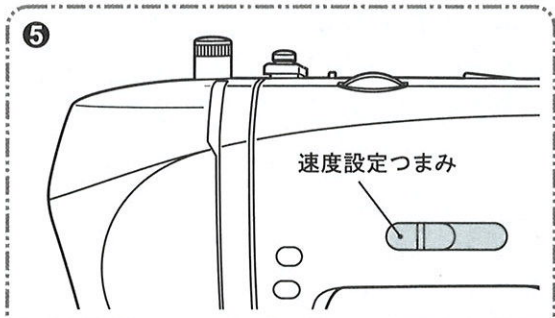
ボビンのミゾと下糸巻軸バネの位置を合わせて、ボビンを糸巻き軸に差し込みます。



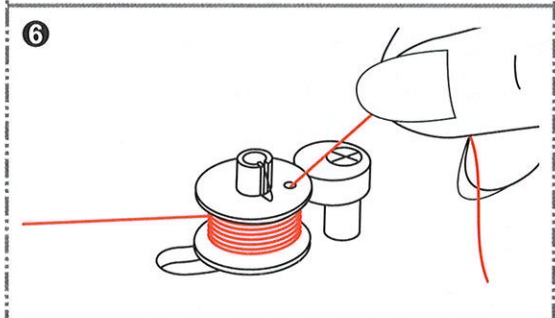
- ④ 軸にセットしたボビンを右側に押し込みます。



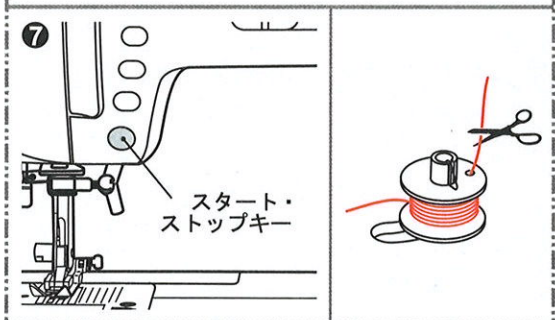
- ⑤ 速度設定つまみを「はやい」にセットします。



- ⑥ ボビンに通した糸端を持ったまま、スタート・ストップキーを押して巻き始めます。



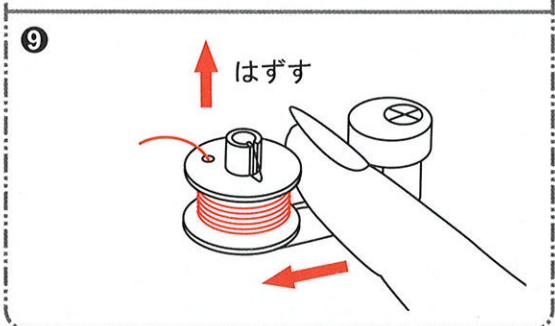
- ⑦ いったん止めて糸はしを切り、もう一度スタートします。



- ⑧ 巻き終わるとボビンの回転は、ゆるやかになります。スタート・ストップキーを押してミシンを止め、巻き終わりの糸を切ります。

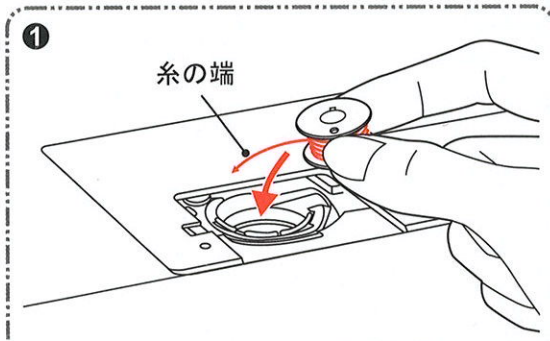
ボビンに少量巻きたい時は、回転がゆるやかになる前にスタート・ストップキーを押してご希望の巻き量で止めてください。

- ⑨ 糸巻き軸を左側に戻してからボビンはずします。

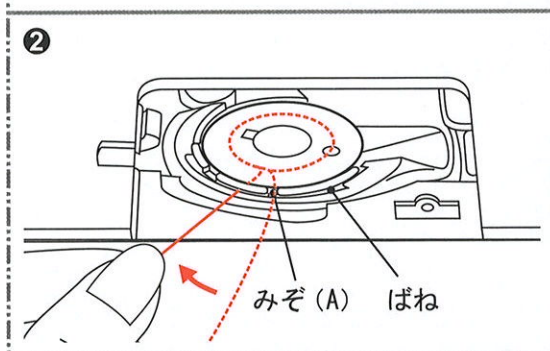


● ボビンをかまにセットします

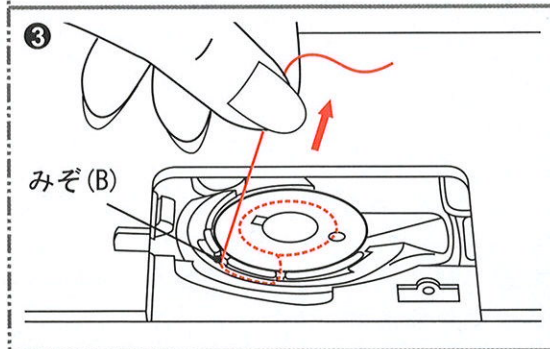
① かまカバーをはずし、糸の端を出してかまの中にボビンが左回りになるように入れます。



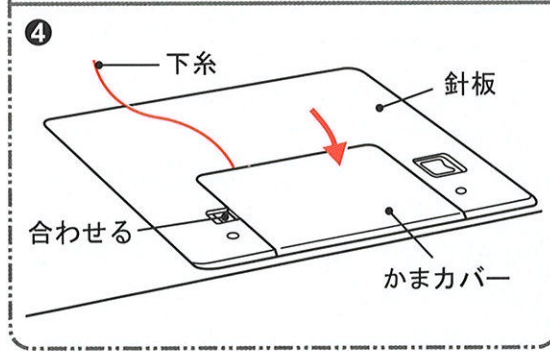
② 糸の端を引きながら、みぞ(A)にかけ、糸を矢印方向へ引っばれば、糸が外周に入っていきます。



③ みぞ(B)にかけ、そのまま後ろ側へ出します。



④ 針板とかまカバーの左端を合わせてから、かまカバーを押し、固定します。下糸は 10cm 位後ろへ引き出しておきます。



注意：ケガ防止のために

ミシンを運転する際は必ずかまカバーを閉めてください。

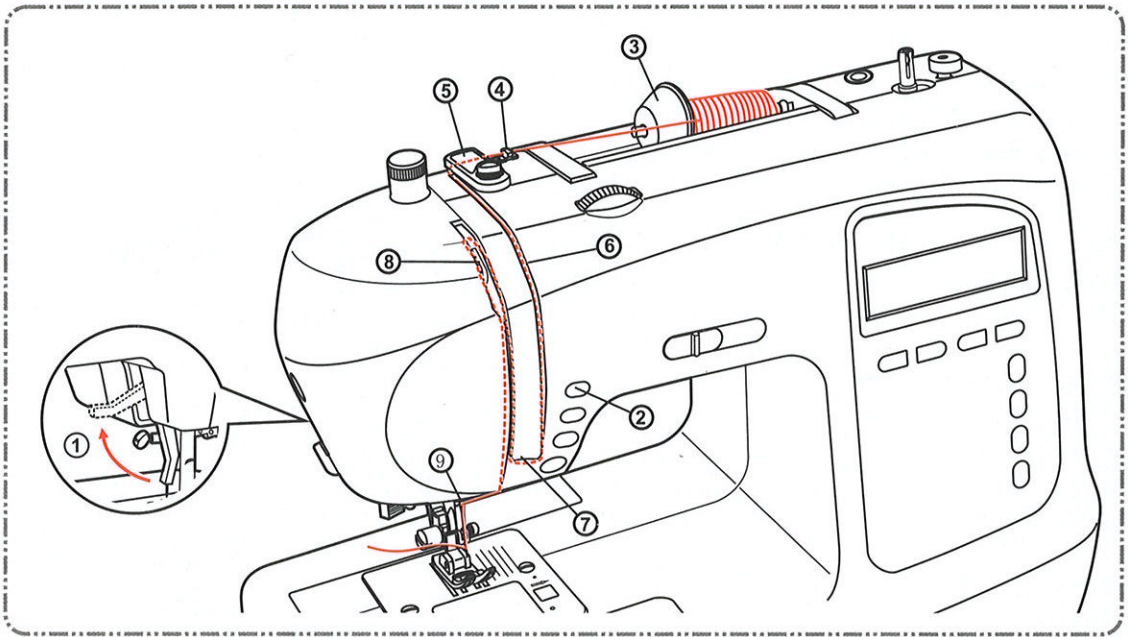
## 上系を通しましょう



注意：ケガ防止のために

- 糸コマの向きや糸コマ押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、針折れの原因となります。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

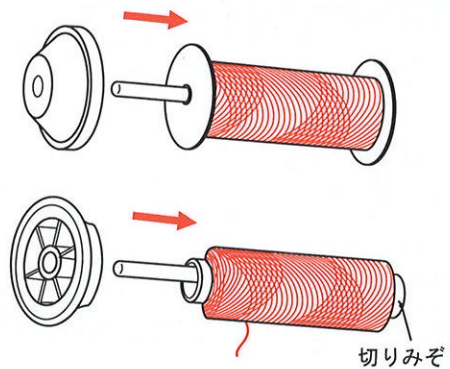
縫う準備をしましょう



### ● 上糸を掛けます

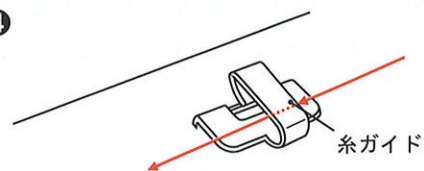
- ① 押え上げレバーを上に出します。
- ② 針上下停止キーを1回又は2回押して針を上に出します。
- ③ 糸立棒を軽くおこし、糸コマを入れ、糸コマ押えで糸コマを押えます。  
小さな糸は糸コマ押えを右図下のように取り付けます。  
糸コマに切りみぞがあるときは、それを右側にしてください。
- ④ 糸コマから糸を引き出し、糸ガイドの後ろから手前に糸を通します。

③



切りみぞ

④

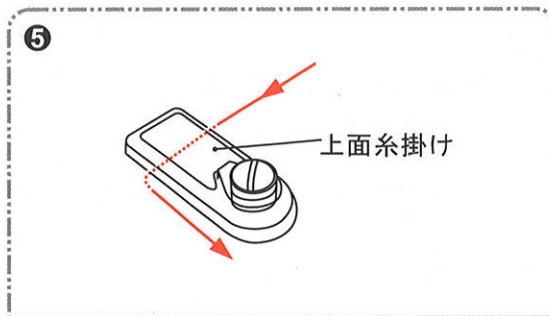


糸ガイド

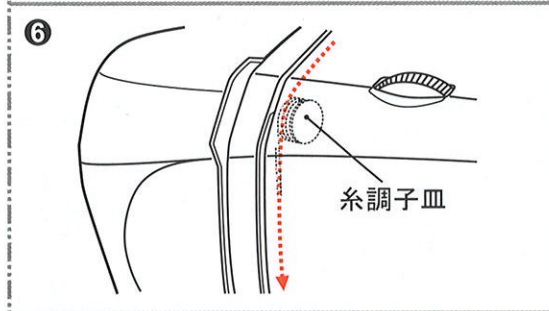


縫う準備をしましょう

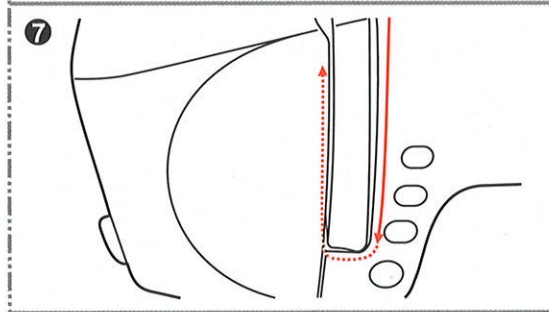
⑤ 通した糸をさらに引き出し上面糸掛けの溝から糸を掛けます。



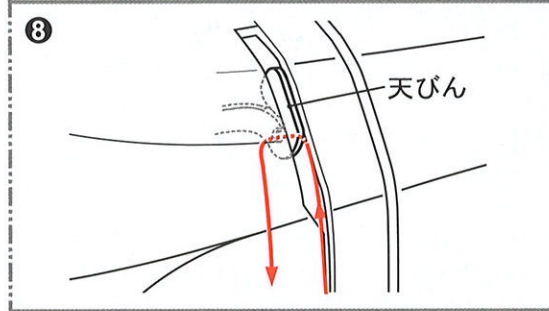
⑥ 上面糸掛けに掛けた糸をまっすぐ手前に引き、溝の中に入れて糸調節の所から溝に沿って下に引いていきます。



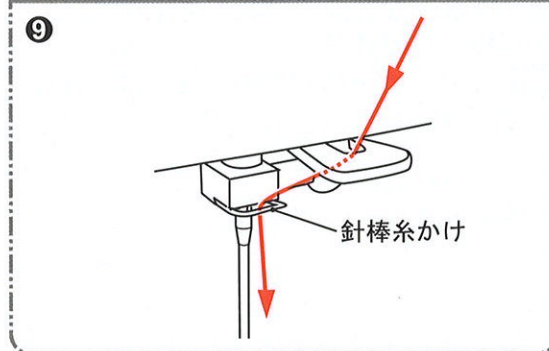
⑦ 溝の終わりから左側に糸を回し上に引き上げていきます。



⑧ 天びんに、右から後ろへ回して、左手前に引き穴の奥までかけます。



⑨ アーム糸掛けに糸は右側から掛け、続いて針棒糸かけに、右から糸をかけます。



このあと、糸通し装置を使って糸を針に通します。「針に糸を通す」(→次ページ)に進みます。

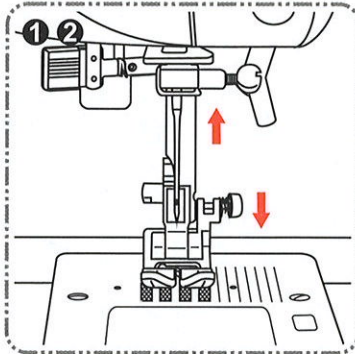
● 針に糸を通します



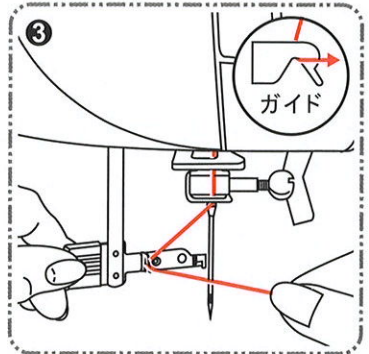
注意：ケガ防止のために

- 糸通し使用中は、はずみ車を手で回さないで下さい。
- ミシンが動いているときは糸通しレバーに手を触れないでください。  
糸通し装置がこわれるだけでなく、針が折れ、ケガのもとになります。

① 押えを下げます。

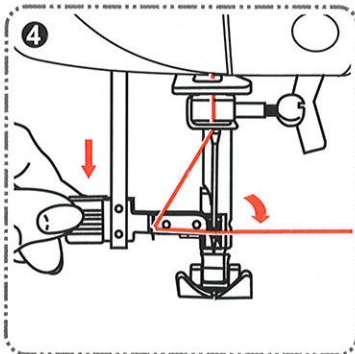


② 上下停止キーで針を上  
に上げます。

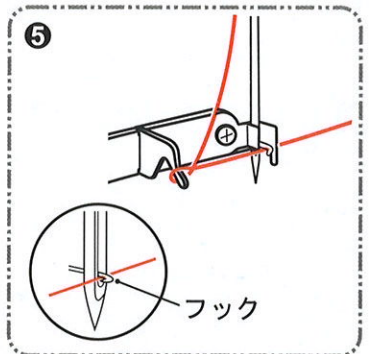


● 針は 11 番、14 番、16  
番が使えます。

③ 糸通しレバーをかるく  
下げ、糸を糸通しのガ  
イドにかけて、右にひ  
いてきます。

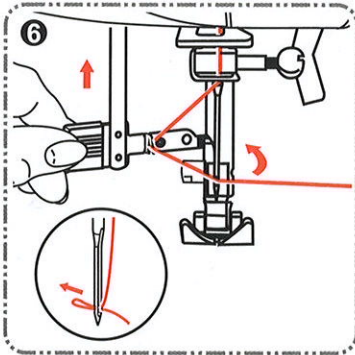


④ レバーをいっぱい到下  
げます。

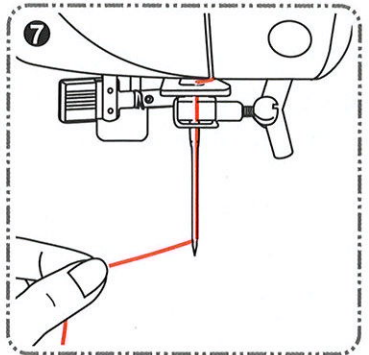


● 糸通しが回転し、フッ  
クが針穴を通ります。

⑤ フックの下に糸をかけ  
ます。



⑥ 糸をかるく持ってレバ  
ーをはなします。

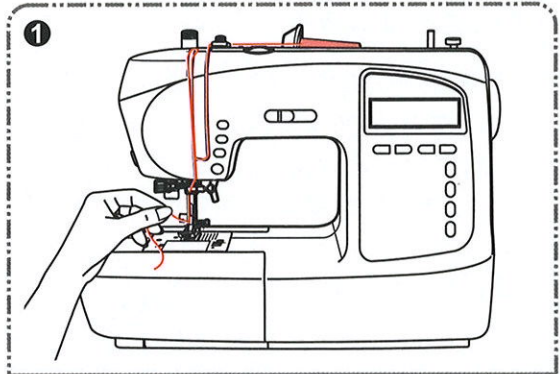


● フックが戻り、糸が輪  
になって針穴を通りま  
す。

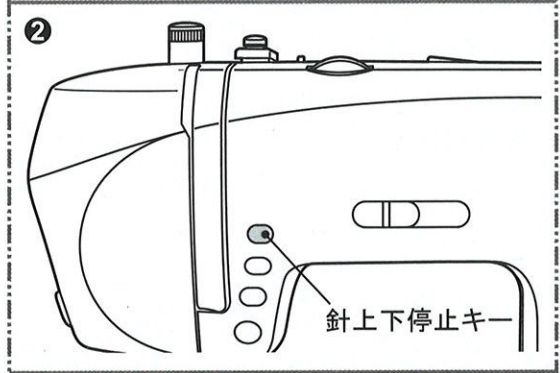
⑦ 糸端を針穴から 10cm  
くらい引き出しておき  
ます。

● 下糸を引きあげます

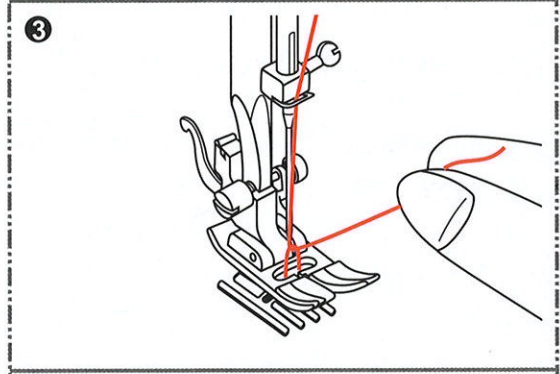
① 押え上げレバーを上へ上げ針に通した糸を左手で持ちます。



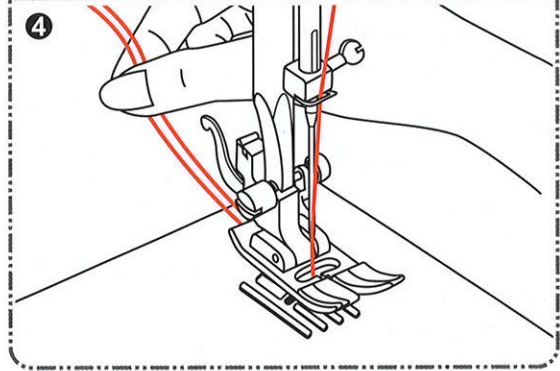
② 針上下停止キーを2回押し、針を上へ上げます。



③ 上糸を軽く引き上げると下糸が引き出されます。



④ 上糸と下糸をそろえて押えの下から後ろに10 cmほど出しておきます。



## 針を取りかえるには

針は、布地や糸に合わせて選びます。ページの「針と糸の選び方」を参照してください。

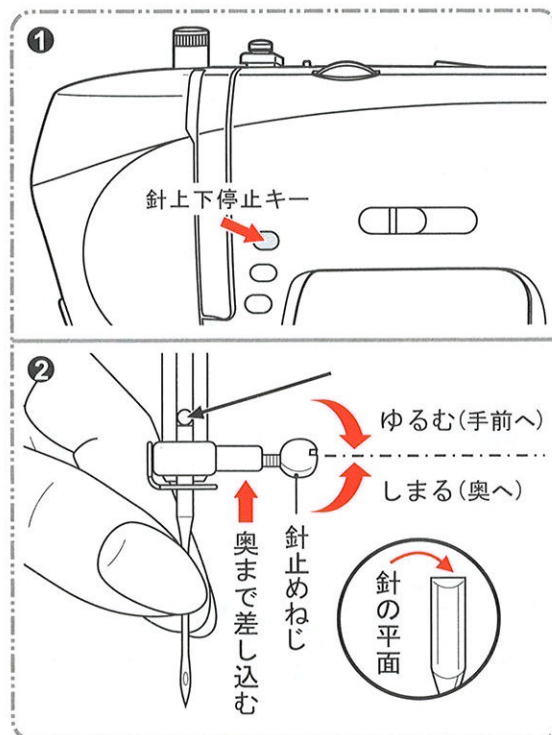


注意：ケガ防止のために

- 曲った針やつぶれた針は、危険ですので、ご使用にならないでください。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- 針は必ず家庭用ミシン針(HAX1)をご使用ください。

- ① 針上下停止キーを1回または2回押し、針を一番上に上げます。

電源を切ります。押え上げレバーを下にさげます。

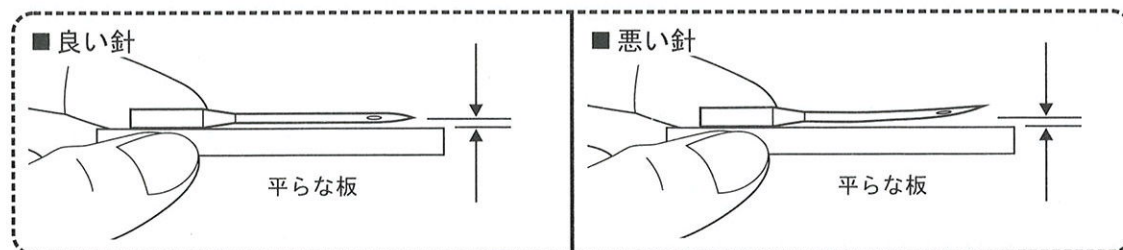


- ② 針止めねじを手前に回しゆるめ、針を下に引き抜きます。

新しい針の裏面(平らな面)を向こう側(針棒側)に向け、針の止まる位置まで深く差し込んで、針止めねじをドライバーで締めつけます。

### ● 良い針の調べ方

取り付け前には、針板など平らなものにのせ、のぞいてみて確かめてください。



## 布地に適した針と糸の選び方

ミシン針は布地や糸の太さによって使い分けます。この表を目安に、布地にあった針と糸を選び、試し縫いをして確かめてください。

布地の種類		糸の番号	針の番号
薄地	薄地ジョーゼット、オーガ ンディー、ポイル、絹布な ど。	綿 80~100 絹 60~80 シャツペスパン系 90	9~11 番
普通地	ギンガム、リンネル、さら さ木綿、サテン、薄手コー デュロイ、別珍、一般服地 など。	綿 50~80 絹 50 シャツペスパン系 60	11~14 番
厚地	ギャバジン、ツイード、デ ニム、キルティング、コー デュロイ、ジーンズなど。	綿 40~50 絹 50 シャツペスパン系 30	14~16 番
伸縮性の布地	ダブルニット、トリコット、 スパンデックス、ジャージ など。	化繊系 50~80 絹 60 ニット用系	11~14 番 ニット用針

- ・糸は数字が小さいほど太く、針は数字が大きいほど太くなります。
- ・ニット用針は伸縮性のある布地や目がとびやすい布地に使用します。
- ・購入時は、14 番の針がミシンに取り付けられています。

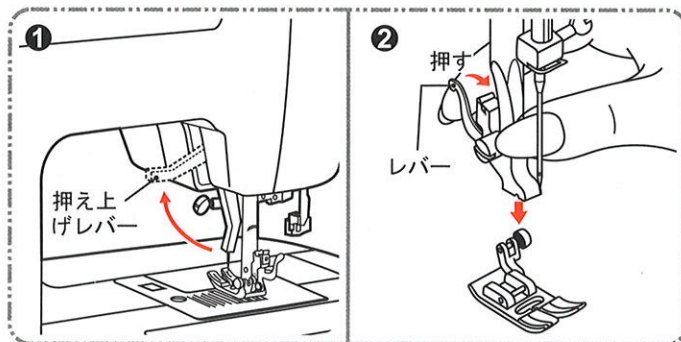
## 押えを取りかえるには

**⚠ 注意:** ケガ防止のために

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たったり、曲ったりして、危険です。
- 必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

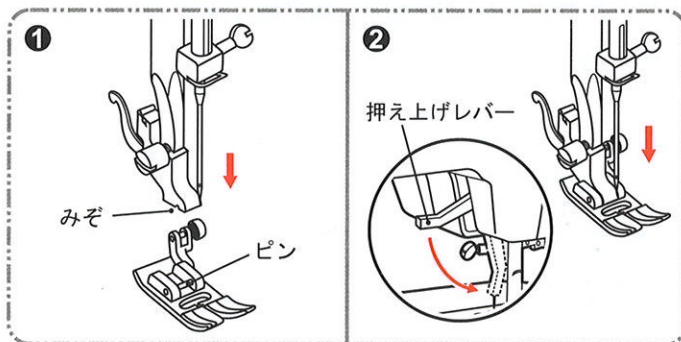
### ● 取り外します

- ① 針上下停止キーを1回または2回押し針を上上げます。  
押え上げレバーをあげます。
- ② 電源を切ります、指先で押えホルダーのレバーを手前へ引くと押えがはずれます。



### ● 取り付けます

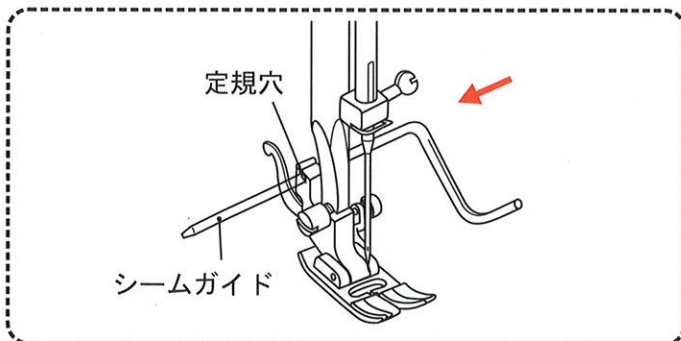
- ① 交換したい押えのピンの部分を押えホルダーのみぞの真下におきます。
  - ② しずかに押え上げレバーを下げピンをみぞに入れます。
- ※ どの押えも、この要領で取りはずし、またセットできます。



### ● シームガイドのつけ方



シームガイドは押えホルダーの定規穴に、図のように差し込みます。

- シームガイドはしるしの線や前に縫ったステッチに平行に縫う時に使うと便利です。

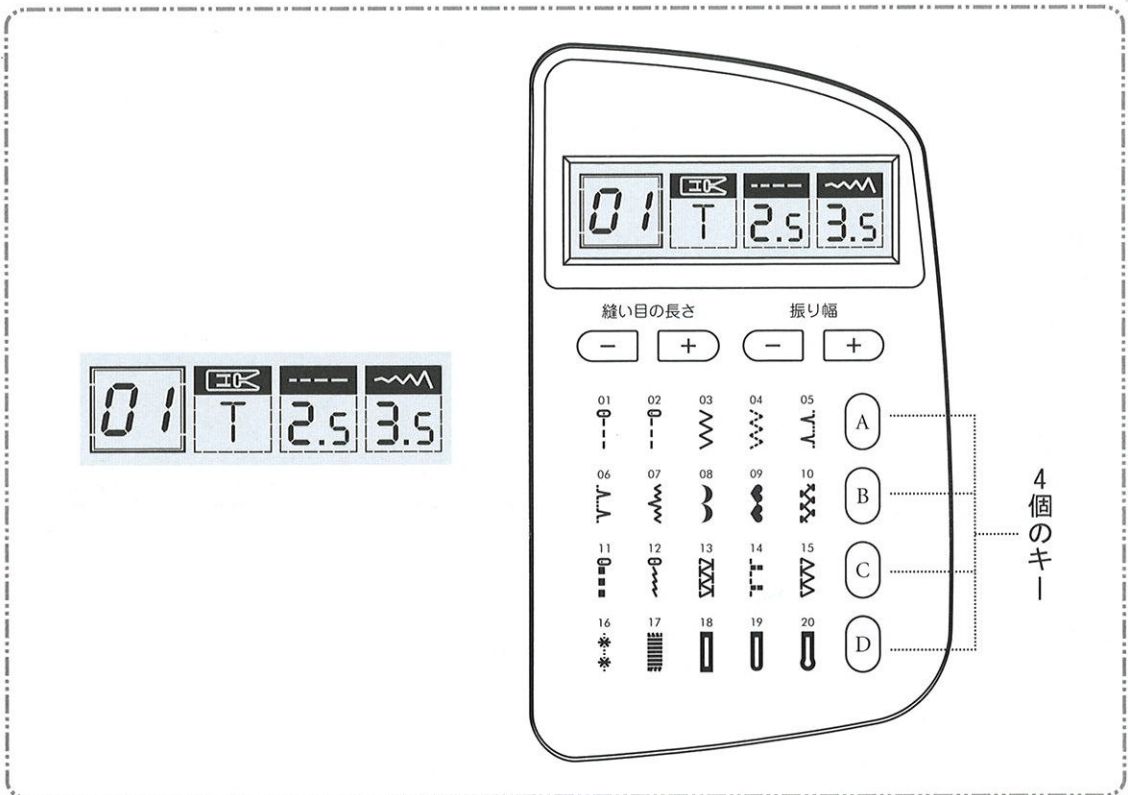


## 模様を選び方

表示パネルの4個のキーで模様を選択します。各キーは左側に印刷された模様の選択に対応し、キーを1回押す毎に、右側の模様に移動し、更に押しつづけると、一番左の模様に戻ります。以下繰り返します。

(例)  一番下の模様選択キー  を4回押します。

電源を入れた直後は、01 直線縫い「中基線」が選択され、下図のように液晶表示窓に表示されます。



- ① 縫いたい模様を決めます。
- ② 選んだ模様にあった押えを準備します。  
押えを取りかえます。
- ③ 電源を入れます。
- ④ 模様選択キーを押します。

選んだ模様には標準の縫い目の長さや幅が自動的に設定されていますが、変更したい場合には、「基本縫い」(→P26)を参照してください。

縫い模様を選ぶときは、次ページのぬい模様一覧を参考にしてください。

● 縫い模様一覧

No	模様	模様の名称	押え番号	縫い目の長さ		縫い目の幅		返し縫い	止め縫い
				自動	手動	自動	手動		
01		直線縫い(中)	T	2.5	0.0~4.5	3.5	0.0~7.0	*	*
02		直線縫い(左)	T	2.5	0.0~4.5	0.0	0.0~7.0	*	*
03		ジグザグ縫い	T	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0		*
04		点線ジグザグ縫い	T	1.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0		*
05		まつり縫い	F	2.0	0.5~4.5	3.5	1.0~7.0		*
06		シェルタック	T	2.0	0.5~4.5	5.0	1.0~7.0		*
07		伸縮まつり縫い	F	1.0	0.5~4.5	3.5	2.5~7.0		*
08		スカラップ	A	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0		*
09		飾り縫い	A	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0		*
10		ファゴティング	A	3.0	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0		*
11		伸縮強化縫い	T	3.0	1.0~3.0	0.0	0.0~7.0		*
12		ニットステッチ	T	2.5	1.0~3.0	3.5	1.0~6.0		*
13		つき合わせ	T	3.0	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0		*
14		アップリケ	T	3.0	1.0~3.0	3.5	2.5~7.0		*
15		裁ち目かがり	E	2.5	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0		*
16		飾り縫い	A	2.5	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0		*
17		ダーニング	D	2.5	1.5~3.0	7.0	3.5~7.0		
18		ボタン穴かがり	D	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~7.0		
19		ネムリ穴かがり	D	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~5.5		
20		ハトメ穴かがり	D	0.5	0.3~1.0	7.0	5.5~7.0		

\*は返し縫い、止め縫いをすることができます。



## 糸調子のとり方

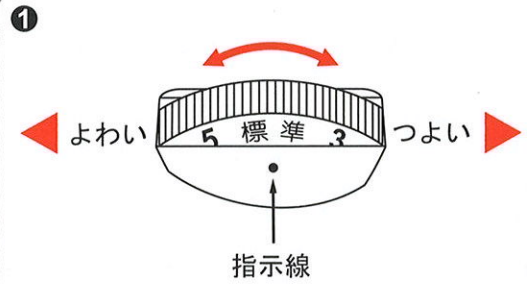
○通常、上糸調節ダイヤルを「標準」に合わせると正しい糸調子になるように調節されています。

布や糸によって、糸調子がうまく取れない場合や、ギャザー寄せなどをするとき、右図のように上糸調節ダイヤルを回して、調節してください。

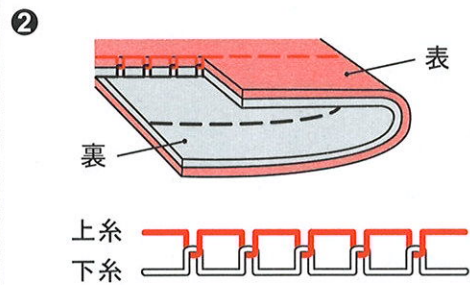
○右図のように、上糸と下糸が布の中間で交差して、かつ、布や糸がつれたり、たるんだりしていないのが正常です。

○左の方向に回すと上糸調子は弱くなります。

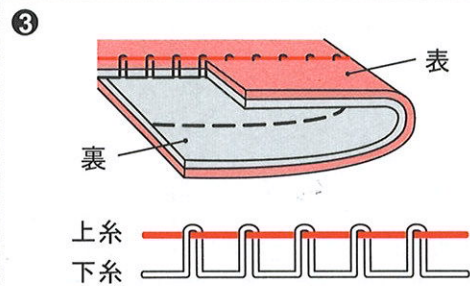
○右の方向に回すと上糸調子は強くなります。



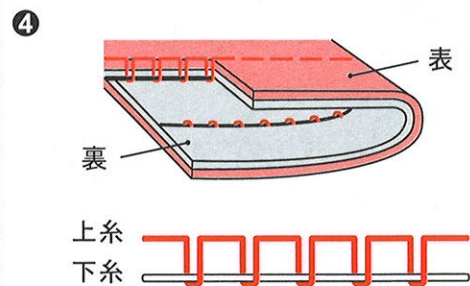
● 上糸調節ダイヤル



● 正しく調節されている場合



● 上糸が強い場合



● 上糸が弱い場合

## 基本縫い（直線縫い及びジグザグ縫い）

基本となる直線縫い及びジグザグ縫いをします。

直線縫いは地縫い、ギャザー、ピンタックなど、ジグザグ縫いは、通常のほつれ止めなどに使用します。

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
01	0----	直線縫い(中)	2.5	0.0~4.5	3.5	0.0~7.0	
02	0----	直線縫い(左)	2.5	0.0~4.5	0.0	0.0~7.0	
03	^v^v	ジグザグ縫い	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0	

① ジグザグ押え(T)を取り付けます。

② 模様を選びます。

③ 縫い目の長さや幅を決めます。

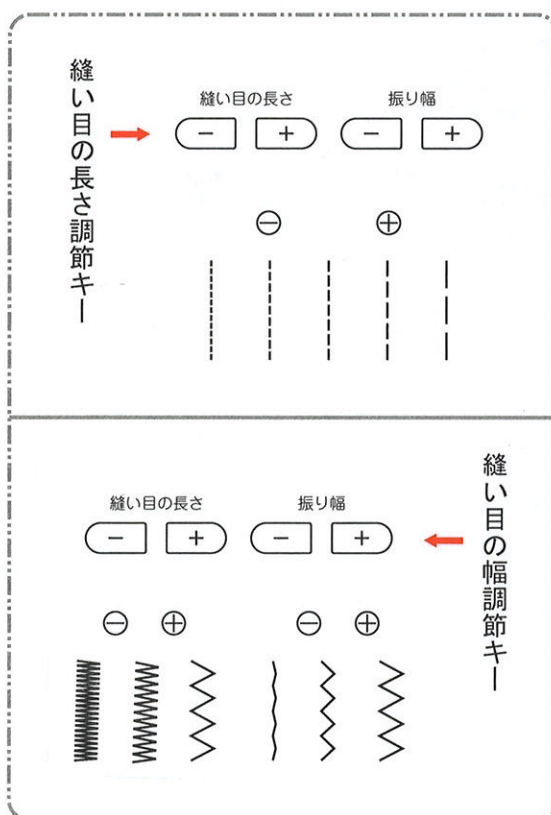
※ 最初は液晶表示窓に自動セットされた適切な長さや幅が表示されます。このまま縫う場合は変更する必要はありません。

### 縫い目の長さを変えるとき

「-」キーを押すと、表示される数値が小さくなり、縫い目が細くなります。

「+」キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目が粗くなります。

\* 返し縫いの縫い目のあさは、2.5mm以上にはなりません。

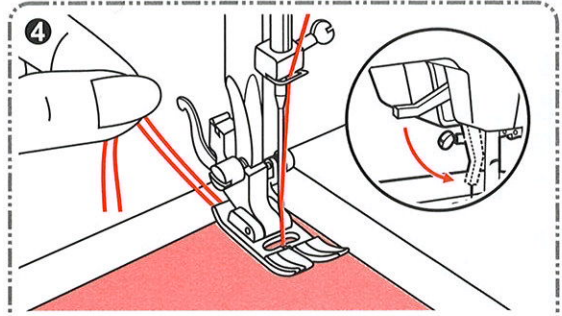


### 縫い目の幅を変えるとき

「-」キーを押すと、表示される数値が小さくなり、縫い目の幅が狭くなります。

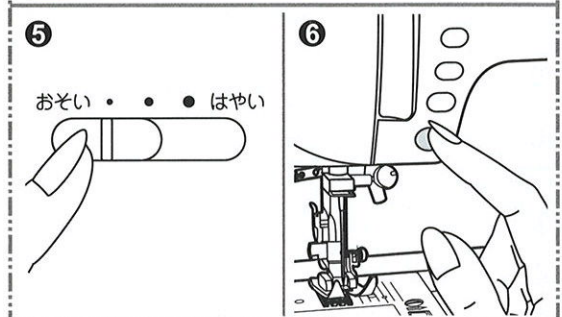
「+」キーを押すと、表示される数値が大きくなり、縫い目の幅が広がります。

- ④ 布地を押えの下におき、縫い始める位置で針上下停止キーを押し、針を刺してから押えをおろします。



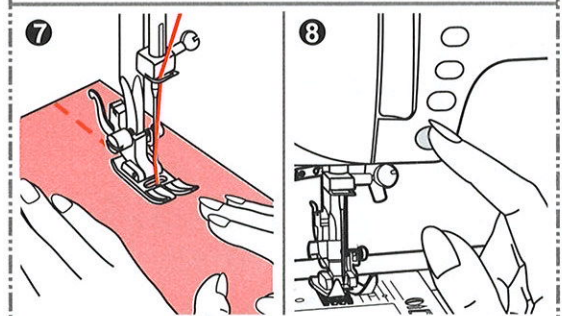
- ⑤ 縫い速度を設定します。

- ⑥ スタート・ストップキーを押してスタートします。

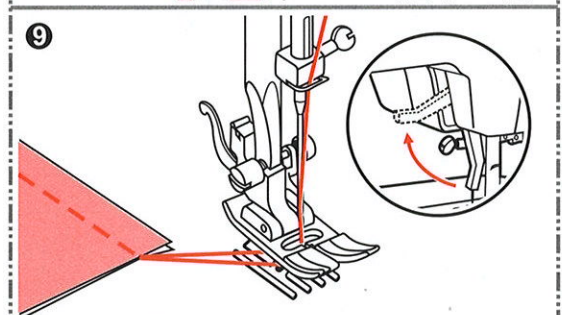


- ⑦ 布地に軽く手をそえます。縫っている間は布地を無理に引っ張らないようにします。

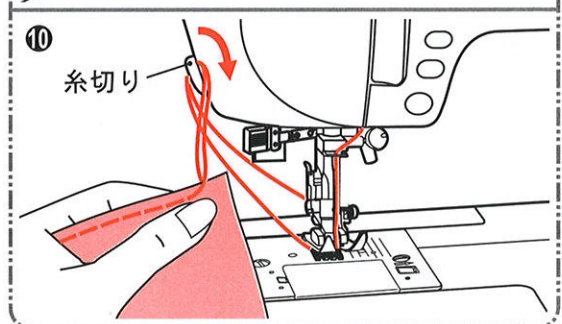
- ⑧ スタート・ストップキーを押してストップします。  
針上下停止キーを押し、針を上げます。



- ⑨ 押えを上げ、布地は後ろへ引いて布地をとりだします。

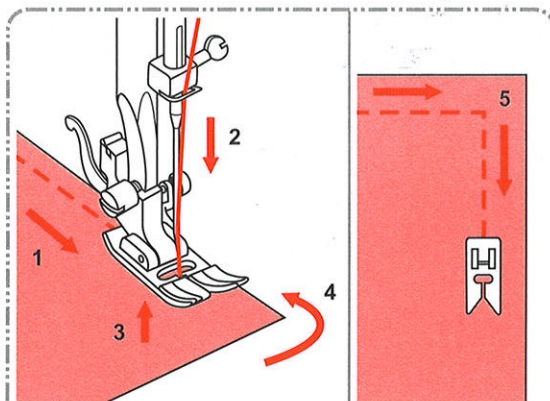


- ⑩ 面板系きりに糸をかけて手前下に引くと糸が切れます。



### ● 縫い方向をかえるには

- ① 布地の角まで来たら、ストップします。
- ② 針上下停止キーを押し、針を下げ、布に刺します。
- ③ 押えを上げます。
- ④ 針を軸にして布地を回し、縫い方向にセットします。
- ⑤ 押えを下げて、縫い始めます。

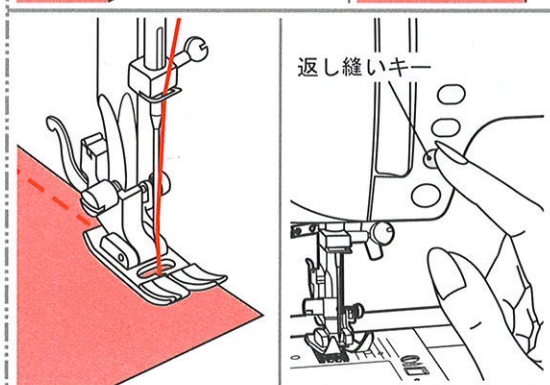


### ● 返し縫い

縫い始めや縫い終わりに 3~5 針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

返し縫いキーを押している間、返し縫いができます。手を離すとミシンは停止します。

縫い始めのほつれ止めに使う場合、縫う端から 3~5 針分手前に針を刺します。

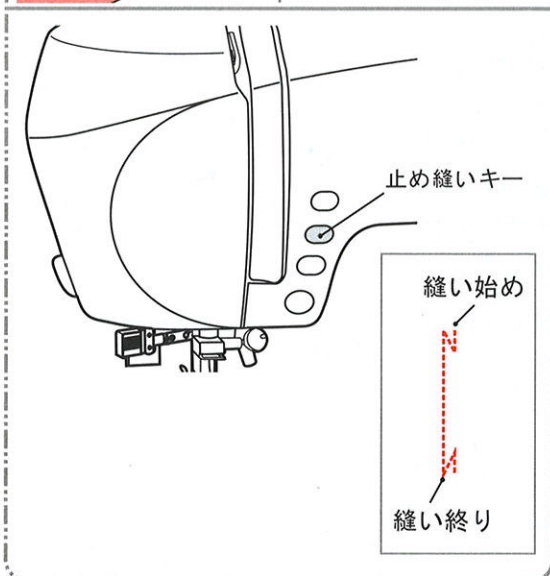


### ● 止め縫い

縫い始めと縫い終わりに自動で止め縫いをすることができます。

\* 参照 (→P9)

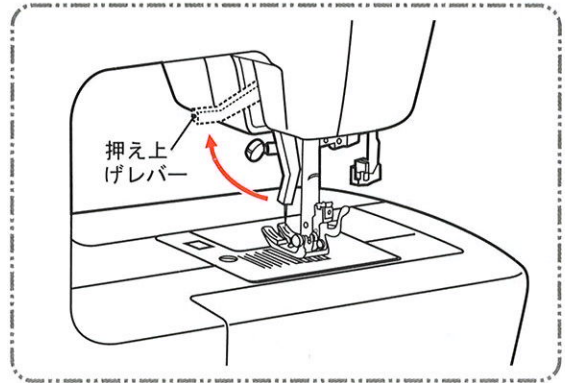
- ① 模様を選びます。
- ② スタート・ストップキーを押します。
- ③ 縫い終わりの位置で、止め縫いキーを押すと、3 針の止め縫いをして自動的に止まります。



## ● 厚地の縫い方

### ○ 厚い布を入れるとき

押え上げレバーを普通にあげた位置より上げると、押えはもう一段上に上がります。(手を離すと普通に上げた位置に戻ります)。

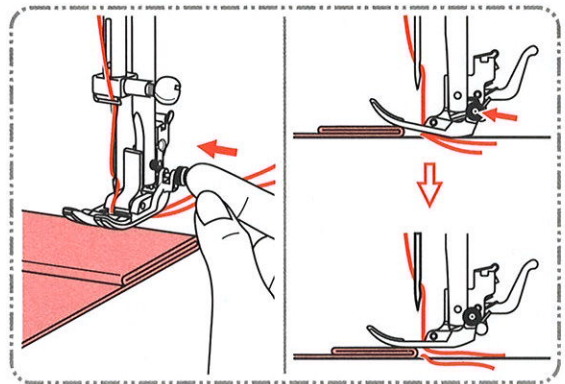


### ○ 厚地の布端の縫い始め

縫い始めの位置に針をさし、基本押えの黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したままで、押えを下げます。

ボタンから手を離し、縫い始めます。



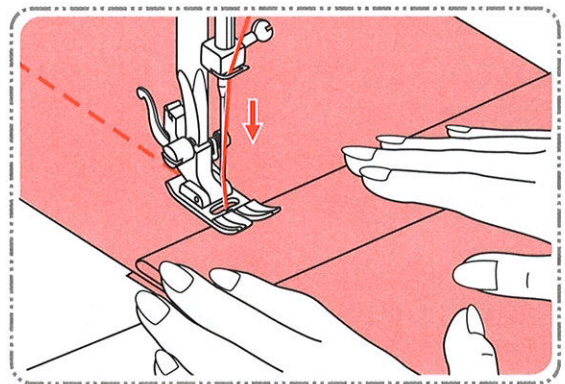
### ● 段縫い

布地が重なって、急に厚くなった部分で針を下にさし、基本押えの黒ボタンを押し込みます。

ボタンを押したままで、押えを下げます。

ボタンから手を離し、再び縫い始めます。

段縫いが終わると自動でボタンは解除されます。

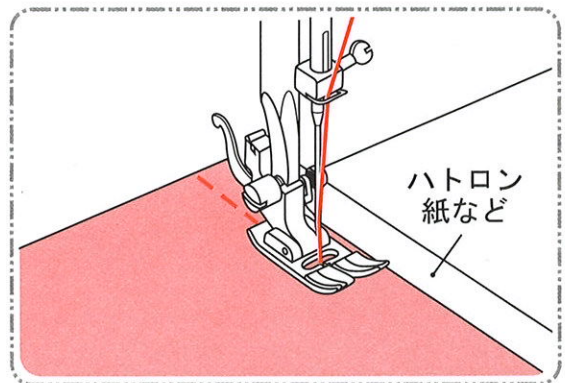


### ● 薄地の縫い方

薄い布地の場合、縫い目がほつれてしまったり、布がうまく送れないことがあります。

その場合は布地の下にハترون紙などの薄い紙を敷いて、布地と一緒に縫います。

縫い終わったら、紙を破いてとりのぞきます。



## 裁ち目かがり

裁断した布端がほつれないように縁かがりをします。

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
03	∧∧∧	ジグザグ縫い	2.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0	 <b>T</b>
04	∧∧∧	点線ジグザグ縫い	1.0	0.3~4.5	5.0	2.5~7.0	
14	∥_∥_∥_	アップリケ	3.0	1.0~3.0	3.5	2.5~7.0	
15	△△△	裁ち目かがり	2.5	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0	 <b>E</b>



注意：ケガ防止のために

○ 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

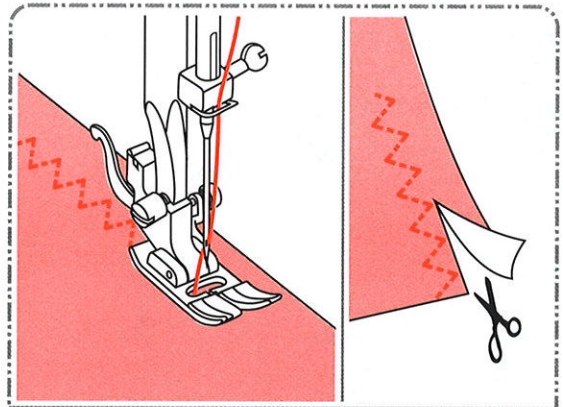
○ 縁かがり押えを使用するときは、縫い目の幅を"4"より小さくして使用しますと針が折れ、危険です。

### ● ジグザグ押えを使用するとき

ジグザグ及び、点線ジグザグぬい、ニットステッチを選びます。

ニットステッチはほつれやすい布や伸縮性のあるほつれ止め、布端の返り防止などに使用します。

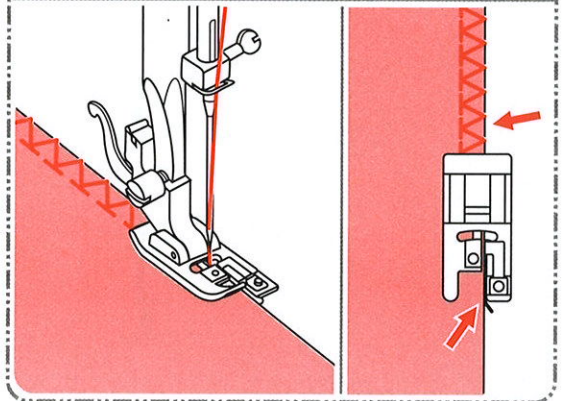
縫いしろを少し余分にとって縫い、余分なところを縫いめの近くで切り落とします。



### ● 縁かがり押えを使用するとき




裁ち目かがりを選びます。

布端をガイドに合わせて縫います。糸調子は弱めで、上下糸が布端で交差するように調節しましょう。



## ボタンホール

ボタンホールは次の3つの模様から選びます。

-  ボタン穴かがり シャツ・ブラウスなどのボタンホール。
-  ネムリ穴かがり シャツ・ブラウスなどの横向きのボタンホールを作るとき。
-  ハトメ穴かがり コート・ジャケットなどの厚いボタンホールを作るときなどに使用します。

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
18		ボタン穴かがり	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~7.0	
19		ネムリ穴かがり	0.5	0.3~1.0	5.0	2.5~5.5	
20		ハトメ穴かがり	0.5	0.3~1.0	7.0	5.5~7.0	



注意：ケガ防止のために

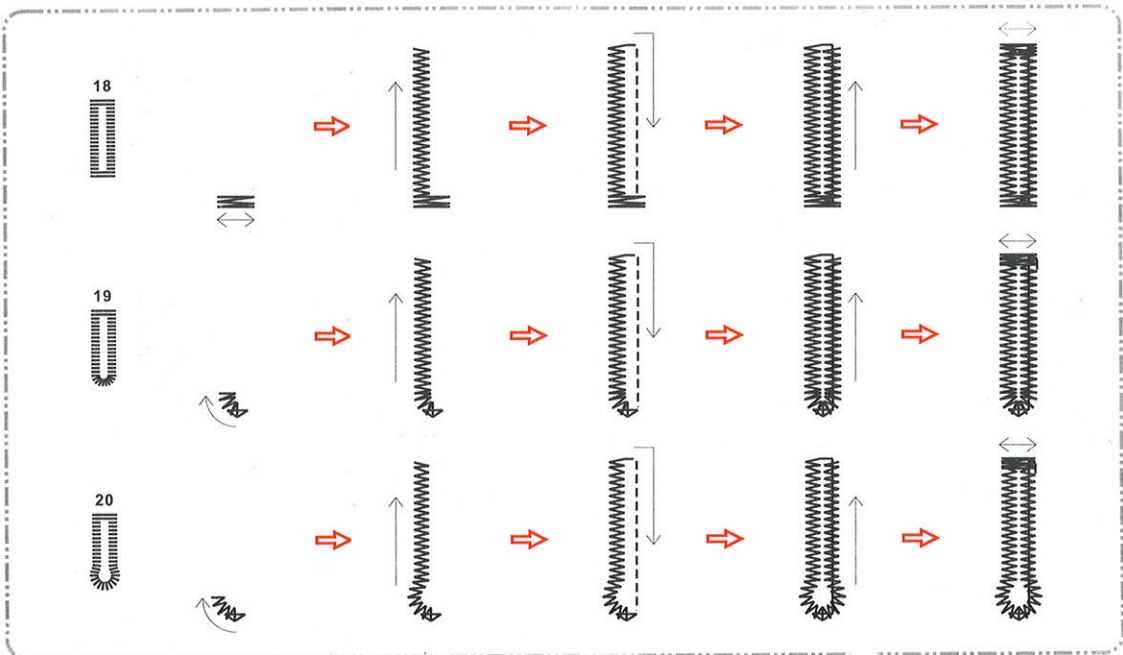
○ 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

「ボタンの直径+厚み」3cmまでのボタンホールができます。

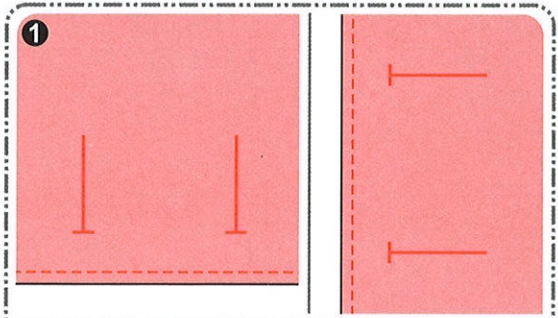
ぬうときは、必ずぬうものと同じ布地(残り布)で試しぬいをしてからぬってください。

ボタンホールは次の順序でぬわれます。

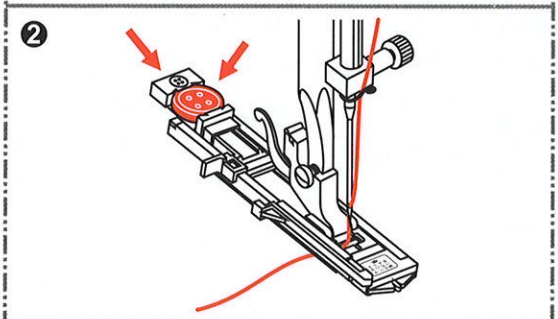
いろいろな縫い方



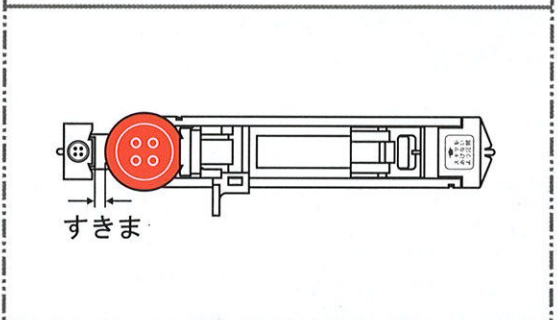
① ボタンホールをする位置にチャコペンなどでしるしを付けます。



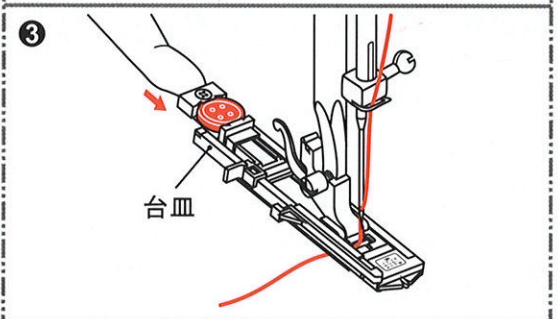
② ボタンホール押え (D) の台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



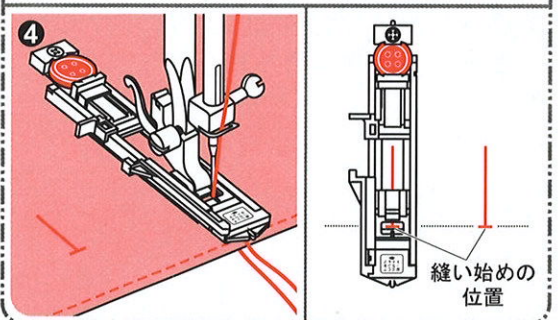
■ 台皿のすきまをあけて、位置決めすると、その分大きいボタンホールができます。



③ ボタンホール押えを取り付けます。

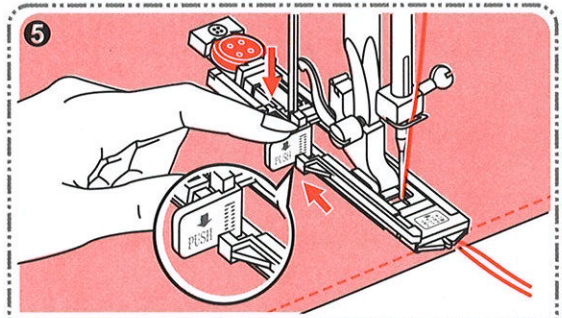


④ 布を入れ、縫い始めの位置に針をさして、押えをさげてください。そのとき、糸は押えの下に通し、手前にだしておいてください。

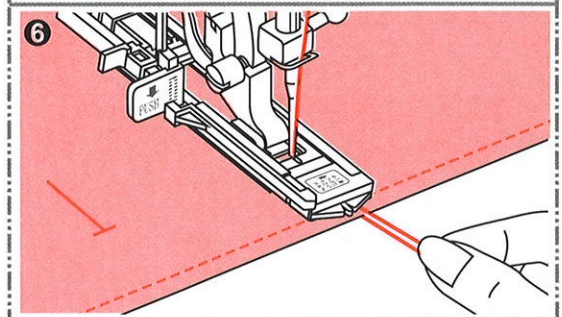




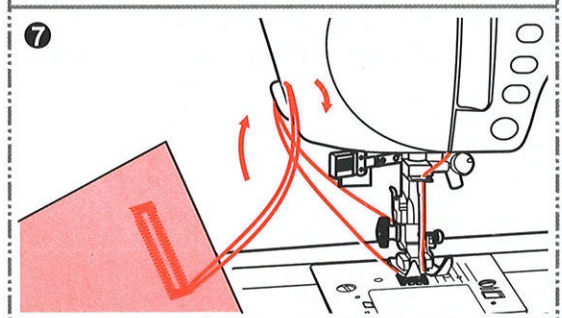
- ⑤ ボタン穴かがりレバーが止まるまで下げ、レバーをうしろへかるく押します。



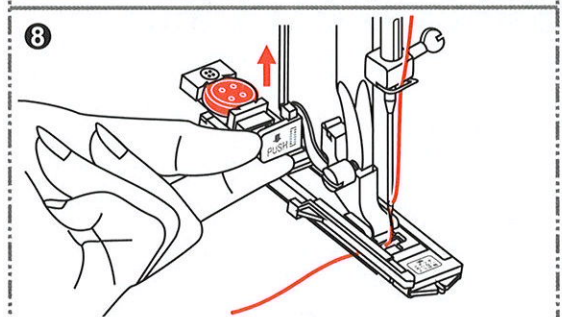
- ⑥ 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。  
縫い終わると、自動的に止め縫いをして止まります。



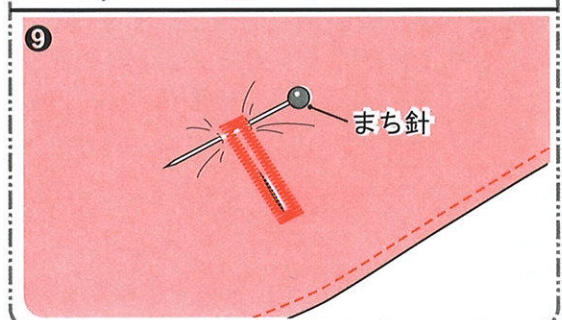
- ⑦ 押えを上げて布地を取り出し、糸を切ります。



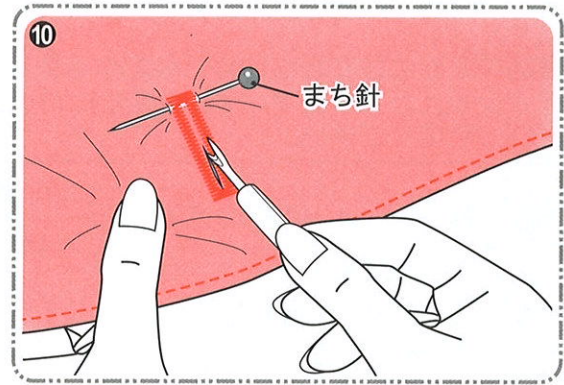
- ⑧ ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。



- ⑨ 縫った部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



- ⑩ 付属のリッパーでボタンホールを切り開きます。



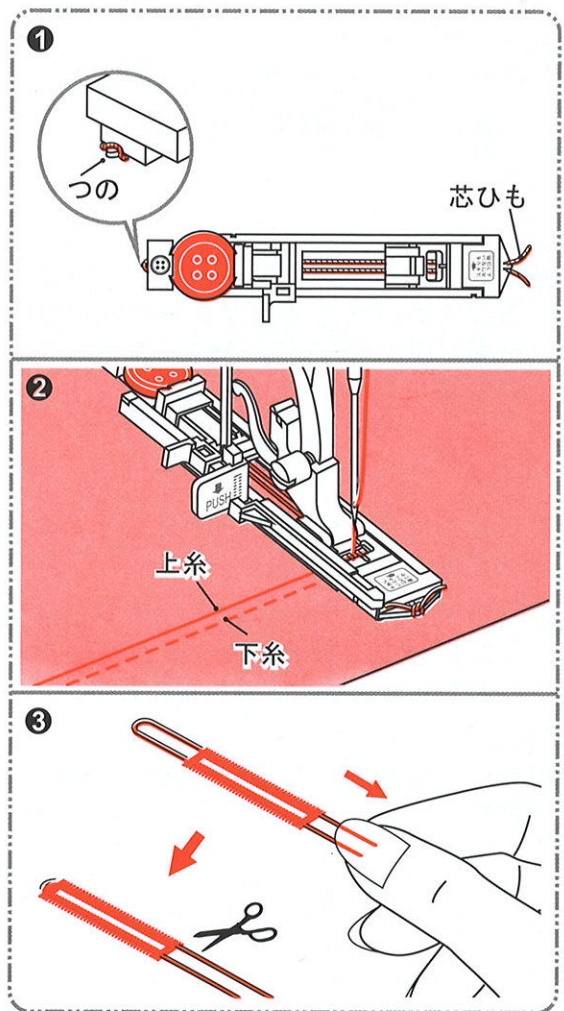
注意：ケガ防止のために

○ リッパーで穴を開けるときの、リッパーの先方に、手や指を置かないでください。すべったときにケガをするおそれがあります。

### ● 芯入りボタンホール

伸びる布地にボタンホールするときは、ボタンホールに芯ひもを入れてください。

- ① 芯糸の輪を押えの後ろ側にあるつものかけ、押えの下から手前に平行になるように引き出し、前側の案内にはさみます。
- ② 通常のリッパーと同様に縫います。
- ③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。



## まつり縫い

布地の表面に目立たないぬい目を作る縫い方です。  
ズボンやスカートの裾、袖口の裁縫に用います。お子さんの服のたけの直しなどにもぜひご利用ください。

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
05	V V	まつり縫い	2.0	0.5~4.5	3.5	1.0~7.0	
07	W W	伸縮まつり縫い	1.0	0.5~4.5	3.5	2.5~7.0	

**⚠ 注意：ケガ防止のために**  
○押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

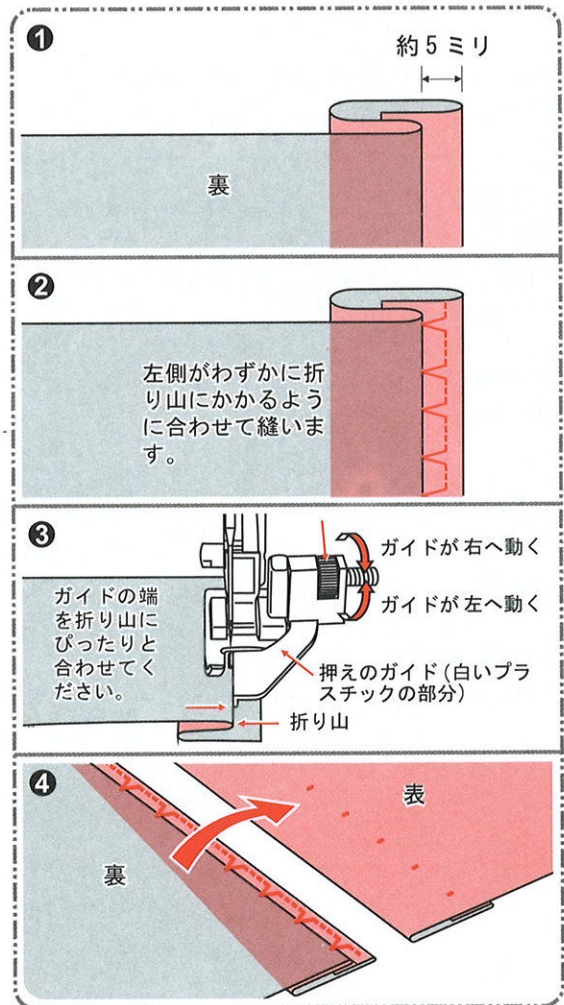
① 布地は右図のように折ります。  
縫い上り後の布地の裏・表を間違えないように十分注意してください。

② はずみ車を回して針が最も左側にくるようにしておきます。その時に針が折り山にわずかに刺さるように布の位置を合わせて縫います。

③ 折り山に押えのガイドを合わせてぬいます。

※ブラインドステッチ押えのネジを回して折り山に押えのガイドがぴったりとあたるように調節してください。

④ 縫い終わりましたら布地を折り返します。



## ファスナー付け

ファスナーは機能的なうえ、装飾にもなります。

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
01	0-----	直線縫い(中)	2.5	0.0~4.5	3.5	0.0~7.0	



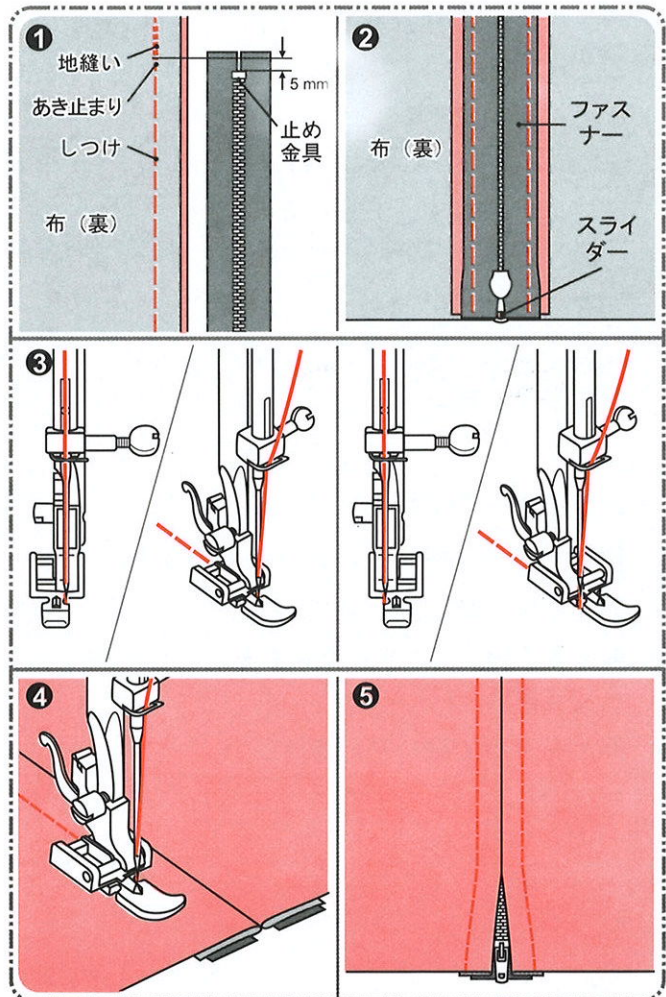
注意：ケガ防止のために

- 押えの交換は必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
- ファスナー押えは、必ず直線だけにお使いください。  
ほかの模様では、針が押えに当たって折れ危険です。

ファスナーの付け方には「つきあわせ」と「脇あき」の方法があります。

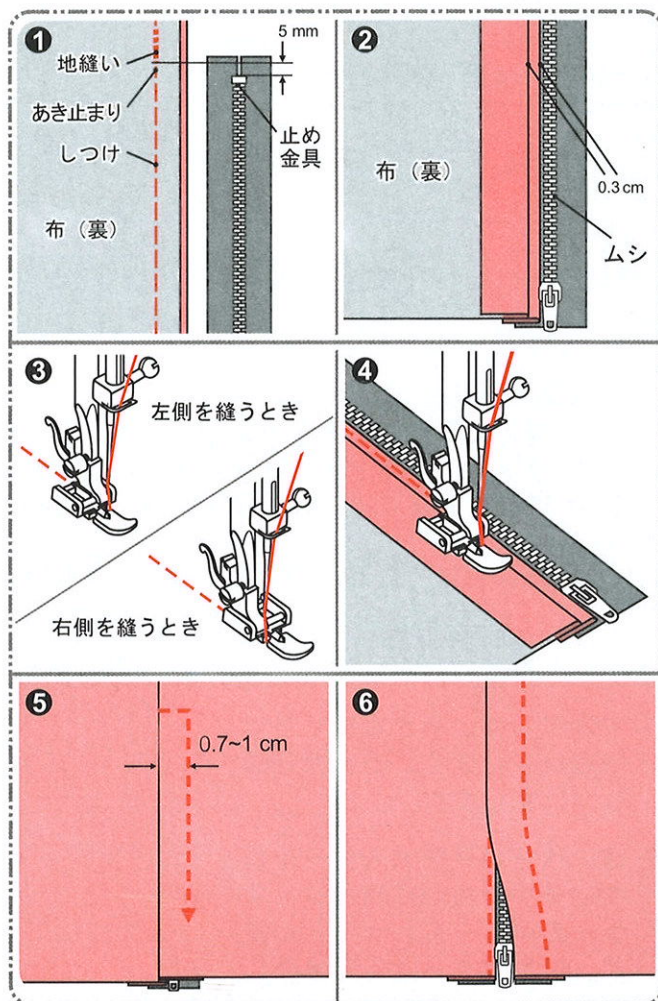
### ● つきあわせ

- ① 中表にして、あき止まりまで地縫いをします。あき部分はしつけをします。
- ② 縫い代をわりファスナーをしつけます。縫い目線とファスナーの中心を合わせてとめます。スライダは手前に倒します。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。ファスナーの左側を縫うときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側を縫うときは、左側のみぞをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりから縫います。布の合わせ目から 0.7~1cm はなして縫います。
- ⑤ あき止まりと右側を縫い、しつけをとります。右側も同様に 0.7~1cm はなして縫います。



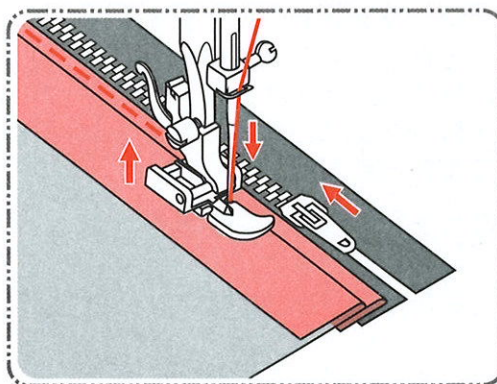
● 脇あき

- ① 中表にして、あき止まりまで地縫いをします。あき部分はしつけをします。
- ② 縫い代をわり・下の布の縫い代を 0.3cm 出して折り目をつけ、折り山をムシに合わせます。
- ③ ファスナー押えを取り付けます。  
ファスナーの左側を縫うときは、押えの右側のみぞを押えホルダーに入れ、右側を縫うときは、左側のみぞをホルダーに入れます。
- ④ ファスナーの左側をあき止まりから縫います。押えがファスナーのムシにのらないようにして縫います。
- ⑤ 上の布を開き、あき止まりと右側を縫います。右側は布の折り目から 0.7~1cm はなして縫います。
- ⑥ スライダーの手前で止め、しつけを取り、スライダーを下げて残りを縫います。



● スライダーをよけて縫うには

1. スライダーの手前でミシンを止めます。
2. 針を下げて布に刺します。
3. 押えを上げて、スライダーを向こう側へ下ろします。
4. 押えを下げて縫い続けます。

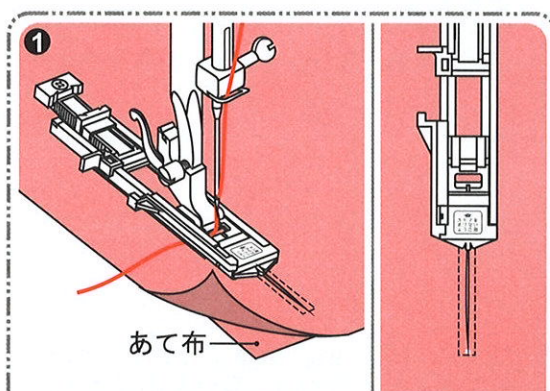


## つくろい縫い

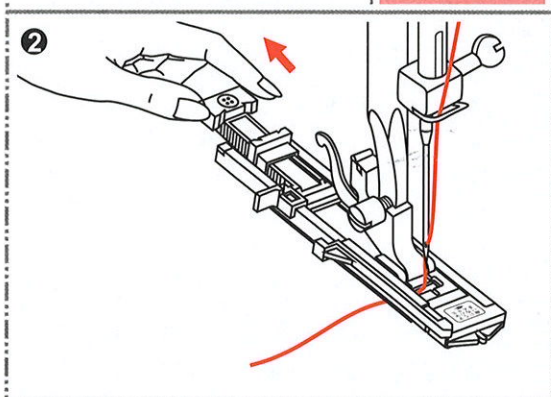
服やズボンのちょっとしたかぎ裂きなどの破れをつくろいます。

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
17		ダーニング	2.5	1.5~3.0	7.0	3.5~7.0	

- ① かぎ裂きなどをした布地の下にあて布を重ねます。  
針の位置を指定します。  
かぎ裂きの中央上部に押えを下ろします。

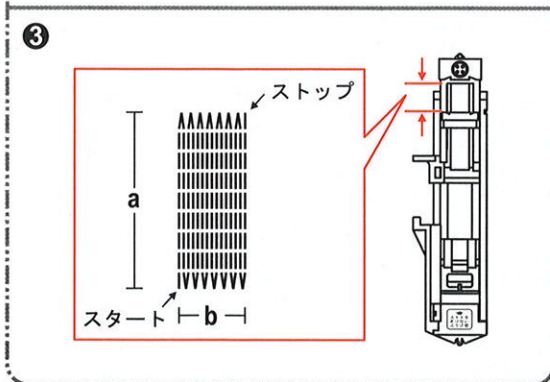


- ② 台皿を引き出しかぎ裂きにあう長さに合わせて、ボタンホール押えのガイドを設定します。



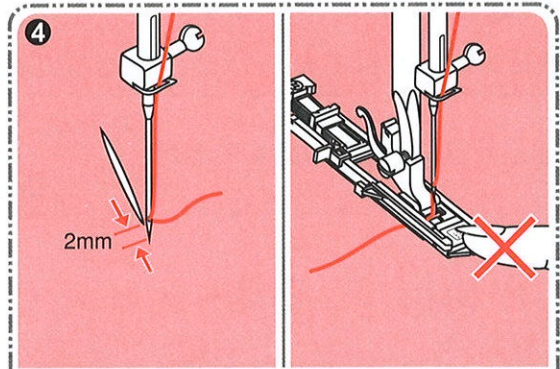
- ③ つくろいの大きさは変えられますが、縫い目の長さは最大 2.6mm、縫い目の幅は最大 7.0mm までです。

- a. つくろいの長さ  
b. つくろいの幅

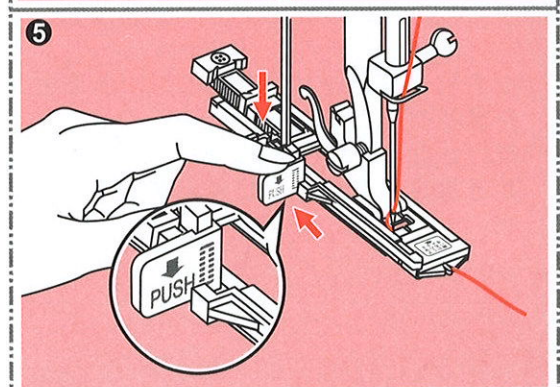


- ④ 針の位置はかぎ裂きより2mm手前になるようにします。  
そして押えを下ろします。

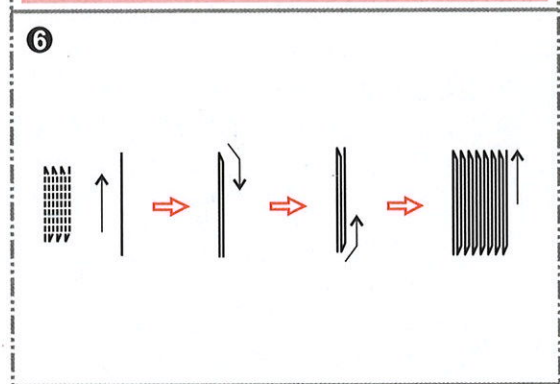
※押えを下ろすとき、押えの手前を押さないようにしてください。  
(かぎ裂きをふさぐ正しい大きさのつくろい縫いができません。)



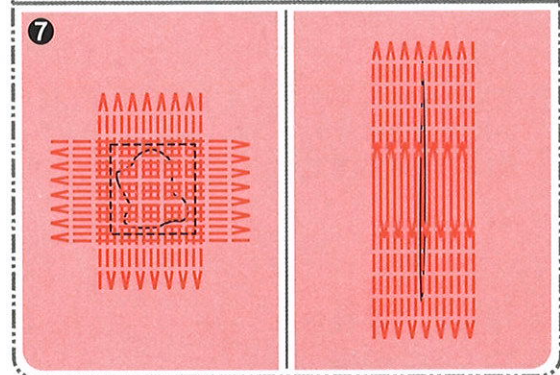
- ⑤ 上糸は押えの下に通し、手前に出しておきます。  
ボタンホールレバーを下げ、左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



- ⑥ つくろい目が図に示すように押えの前から後ろへと自動的に縫いあがります。



- ⑦ 大きなつくろいをするときは、針位置をかえながら、何回か縫うとよいでしょう。



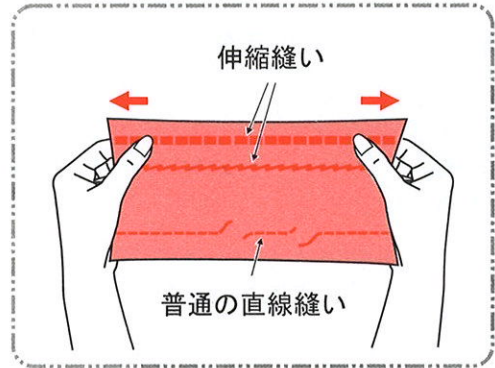
## 伸縮縫い

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
11		伸縮強化縫い	3.0	1.0~3.0	0.0	0.0~7.0	
12		ニットステッチ	2.5	1.0~3.0	3.5	1.0~6.0	

伸縮強化縫いは直線の三重縫いです。丈夫で伸縮性のある縫い目なので、力がかかってほつれやすい部分やデニムなどの厚地の布地の縫い合わせに最適です。

伸縮ぬいは、伸び縮みがきき、布地を伸ばしてもぬい糸はきれません。

いずれも、伸びる布の地縫いなどにお使い下さい。縫い方は直線縫いと同じです。

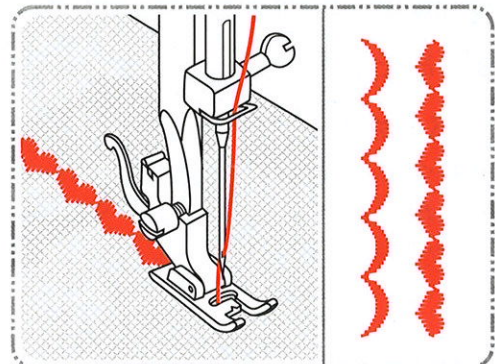


## 飾り縫い

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
08		スカラップ	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0	
09		飾り縫い	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0	
16		飾り縫い	2.5	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0	

模様を連続して縫うことにより装飾的な効果を得ることができます。

押えはジグザグ押えでもかまいませんが、ジグザグ模様の細かい縫い目ピッチには、サテン押えを使うと布の送りがたやすくなります。





## その他の応用縫い

No	模様	模様の名称	縫い目の長さ		縫い目の幅		押え
			自動	手動	自動	手動	
06	∩∩∩	シェルタック	2.0	0.5~4.5	5.0	1.0~7.0	
08	∩∩	スカラップ	0.4	0.3~1.0	7.0	2.5~7.0	
10	×××	ファゴティング	3.0	1.0~3.0	7.0	2.5~7.0	
13	△△△	つき合わせ	3.0	1.0~3.0	5.0	2.5~7.0	

### ● スカラップ

布をおもてから、布端を1cmくらい残して縫います。

糸を切らないように、外側の布を縫い目にそって切り落とします。

### ● シェルタック

うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。

はずみ車を手前に回して針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

### ● ファゴティング

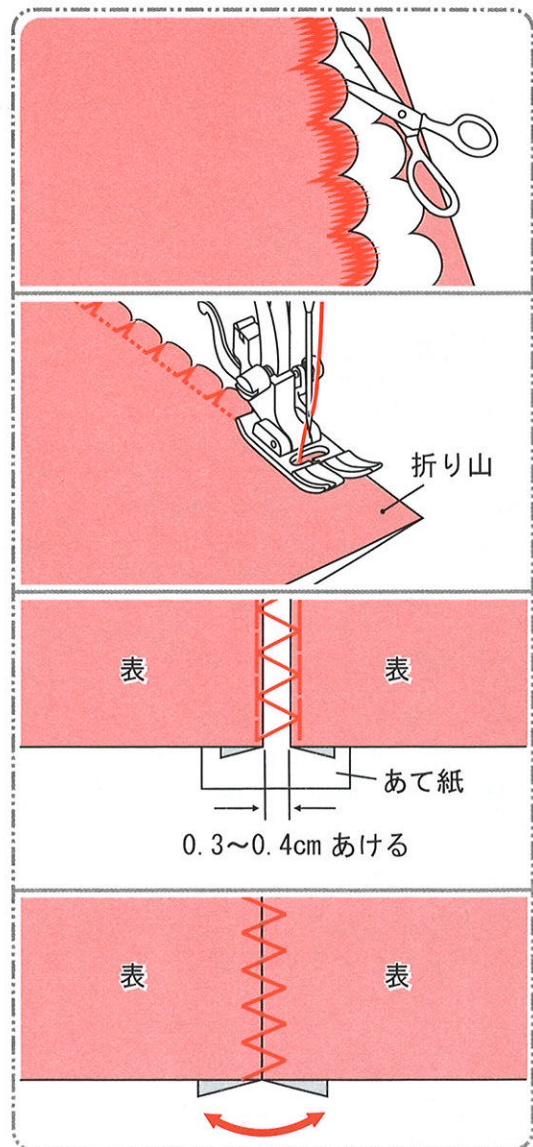
布端と布端の間隔を0.3~0.4cmあけて、裏にあて紙をします。

布のおもてから、間隔の中央を中心にして縫います。

あて紙をとります。

### ● パッチワーク

布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。布のおもてから、地縫いの線を中心にして縫います。

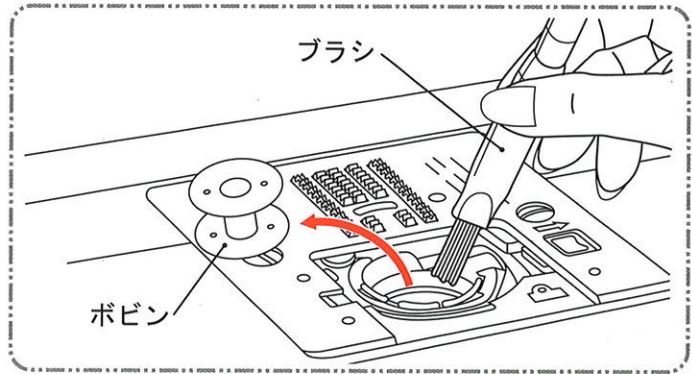


## ミシンの手入れ

**⚠ 注意:** ケガ防止のために  
お手入れの際は必ず電源プラグを抜いてください。

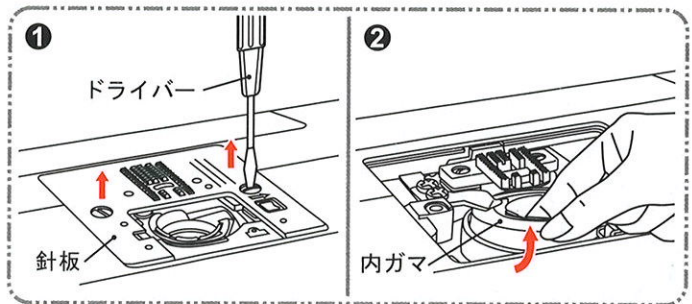
### ● かまの掃除

- ① かまカバーをはずしてボビンを取り出します。
- ② ブラシで糸クズやほこりを掃除します。



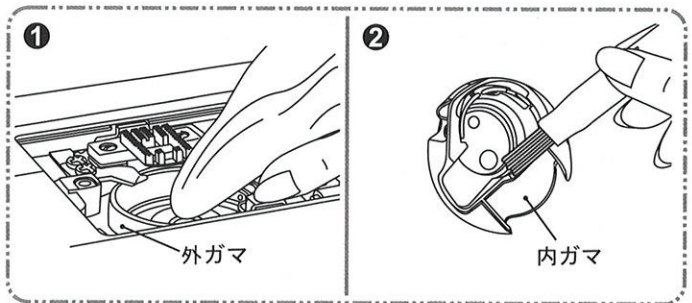
### ● かまの分解

- ① 針板の止めネジ(2ヶ所)を付属のドライバーではずし、針板を取ります。
- ② ボビンを取り出してから、ボビンケースの手前を上へ引きながらはずします。



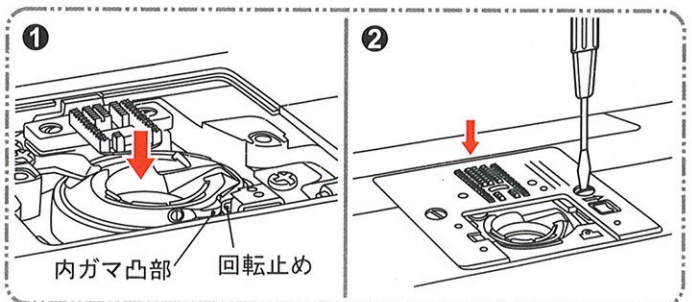
### ● 内がまと送り歯の掃除

- ① 送り歯のゴミをブラシで払い、外がまの中央部を布などで軽く拭きます。
- ② 内がまをブラシで掃除し、布で軽く拭きます。



### ● かまの組み立て

- ① 内がまを差し込み、内ガマの凸部を回転止めの左側に納めます。
- ② 針板を置き、2か所の針板の止めネジを締めます。



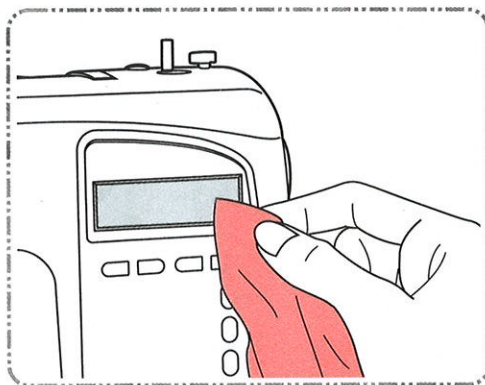
### ● 液晶表示窓の清掃

窓が汚れている場合、乾いた布で軽くやさらかく、拭いてください。

洗剤や有機剤など使用しないでください。

### ● 本体表面の掃除

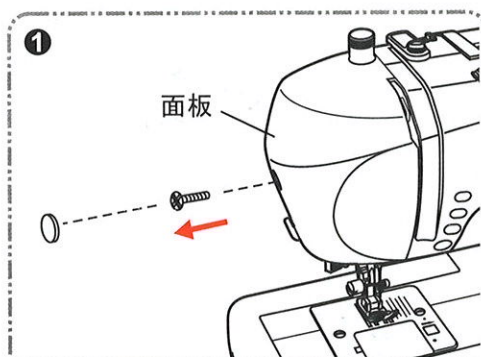
中性洗剤を薄めて布に浸して固くしぼり、ふき取ります。洗剤で拭いたあとは、乾いた布で拭き取ります。



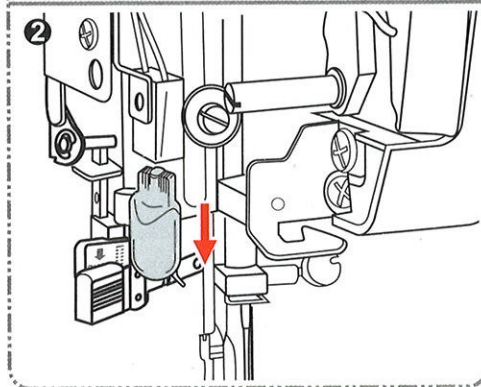
## ランプの交換

**!** 注意：ケガ防止のために  
長時間使用していると、ランプが熱くなりやけどをする恐れがあります。  
電源プラグを抜いて十分冷えてから交換してください。

- ① ランプの交換や点検は面板を開けてください。



- ② ランプは下方に押し下げるとはずれます。  
ランプを入れる時は上方に押し込むと入ります。  
電球がゆるんでいますと切れやすくなるのでよく押し込んでおいてください。  
※ ランプは必ず 5W12V のものを使用してください。



## 困ったときには

ミシンの調子が悪い場合は、まず次のことを確かめてください。

不調の状態	原因	処置	参照ページ	
ミシンが動かない	○電源が入っていない。	電源を入れます。	11	
	○スタート・ストップキーを押していない。	スタート・ストップキーを押します。	9	
	○フットコントローラー(別売り)が取り付けられている。	コントローラーで操作するか、コントローラーをはずします。	47	
	○糸巻き軸が右へ押されている。	左へもどします。	14	
	○かまに、糸やゴミがたまっている。	糸やゴミを取りのぞきま す。		
布地が縮む	○上糸の調子が強すぎる とき。	適正な強さに調整します。	25	
	○上糸の掛け方がちがっ ていたり、余分な箇所 にひっかかっているとき。	正しく掛け直します。	15	
	○布地に対して縫い目の 長さが長すぎる時。	適正な長さにセットしま す。	24	
縫い目に輪が できる 針が折れる	○上糸、下糸の調子が完 全でないとき。	適正な強さに調整します。	25	
	○細い針で厚地を縫った り、細い針に太い糸を 使ったとき。	布地に合った針や糸を使 います。	21	
	○針の取り付けかたが悪 かったり、曲った針を 使用したとき。	正しくつけ直します。	20	
	○布地を無理にひっぱっ たとき。	手は布地にそえるだけ にします。	27	
	○針が正しく取り付けら れていない。	針を正しく取り付けま す。	20	
	○模様に対し押えが合っ ていない。	模様にあった押えを取 りつけます。	26, 30-41	
	布地を送らな い	○縫い目長さが布地に合 っていない。	縫い目の長さをセットし なおします。	26

不調の状態	原因	処置	参照ページ
布地を送らない	○ 針が曲がっていたり、針先がつぶれているとき。	針をとりかえます。	20
	○ 針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	21
	○ 上糸の掛け方がちがっているとき。	正しく掛け直します。	20
縫い目がとぶ	○ 針が正しく取り付けられていないとき。	正しくつけ直します。	20
	○ 針板の下に糸くずがからまっているとき。	掃除します。	42
	○ 針と布糸の材質が合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	21
	○ 糸の掛け方がちがっているとき。	正しく掛け直します。	16
	○ 針が曲がっていたり、先端がつぶれているとき。	針を取りかえます。	20
上糸が切れる	○ 針が糸の太さと合っていないとき。	布地に合った針や糸を使います。	21
	○ 上糸の調子が強すぎる時。	適正な強さに調整します。	25
	○ 針の取り付けかたがちがっているとき。	正しくつけ直します。	20
	○ 糸が必要以外のところからみついているとき。	糸を掛け直します。	17
下糸が切れる	○ ボビンのセットがまちがっている。	正しくセットしなおします。	15
	○ かまの中で下糸がからみあっているとき。	からんだ糸を取りのぞきます。	15
ボビンに糸が巻けない	○ ボビンが下糸巻き軸に完全にさしこまれていないとき。	完全に差込みます。	15

この項に記載されている項目以外の不調、または部品の交換、電気系統の故障の修理サービスは、ご購入店におたずねください。

## 修理サービス要領

### ● 修理サービスのご相談

1. このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2. 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。

### ● 修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間が必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

### ● 無料修理保証期間後の修理サービス

1. 使用の手びきに基づいて正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。
  - イ. 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - ロ. 浸水、冠水、火災等、天災、地震により不調、故障または損傷したとき。
  - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  - 二. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
  - ホ. 職業用として無理な使用により不調、故障または損傷したとき。
2. 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によっても元どおりに修復できないことがあります。
3. このミシンは持ち込み修理品ですので、修理の際はご購入店までお持込みくださるよう、お願いいたします。

## フットコントローラー(別売り)

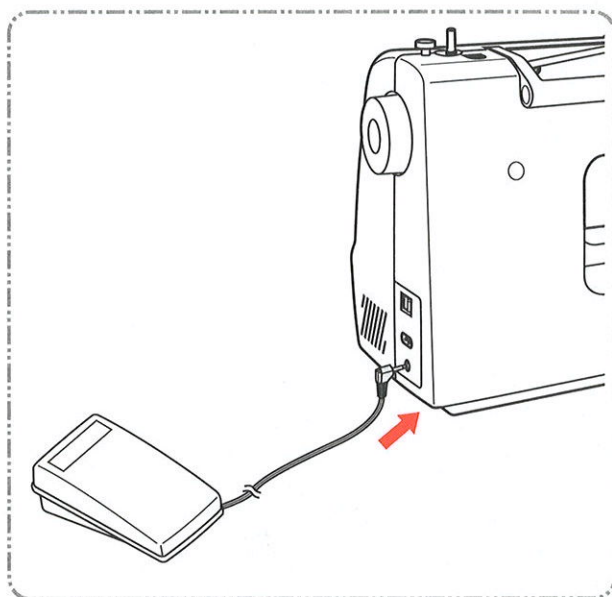
○フットコントローラーを使いますとミシンのスピードを足で調節することができます。

**⚠ 警告:** 感電、火災を防ぐために  
コントローラーは落としたり、座布団の下において使用しないでください。

**⚠ 注意:** ケガ防止のために  
コントローラーを接続するときは必ず電源スイッチを切ってください。

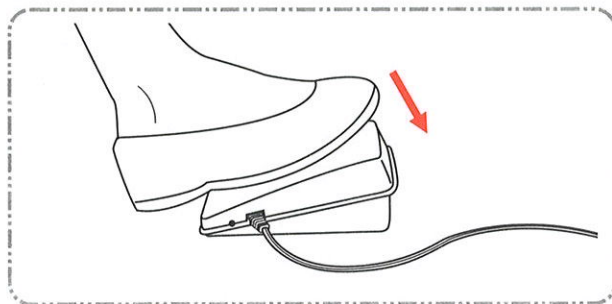
### ● 接続の仕方

右図のように、フットコントローラーのプラグをコントローラー差込口に差し込んで接続します。



### ● コントローラーの使い方

- ・ 軽く踏む 縫いスピードは遅い。
- ・ 深く踏む 縫いスピードは速い。



株式会社 **ジューキ**

本社/〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-11-11 TEL 03 (3265) 2851 (代表)

修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。